

第28回（2012年度）マツダ財団支援

# 市民活動概要

公益財団法人 マツダ財団

The Mazda Foundation

## 設 立 趣 意 書

我が国経済はめざましい成長を遂げ、今日多くの国民が、日常生活の中で豊かさを享受しております。

これには、科学技術の発展のあずかるところが大きく、産業界も厳しい環境を克服し、高度の技術革新をすすめることでその一翼を担ってきました。換言すれば、天然資源に恵まれない我が国は、人びとの英知と勤勉さを資源として科学技術の振興を図ることによって、国際社会に伍し、社会経済の発展を成し遂げてきたといえます。このことは、未来社会においても同様であると考えます。

一方、急速な経済成長は、国の内外における様々な分野で新しい課題を提起してきました。工業化社会、さらには情報化社会の進展による社会環境の変化が、青少年の社会生活に多様な影響を及ぼしていることもその一つであります。物質的な豊かさが精神的な豊かさをもたらさず、むしろ青少年の心の荒廃を加速しているのではないかと指摘されています。心身共に発達形成期にある青少年の育成に、今まさに適切な施策や方途を講ずることが望まれる所以であります。

人びとが共に繁栄を分かち合い、心豊かに生きることのできる社会の実現を願うとき、調和のとれた科学技術の発展と、将来これらを担うべき青少年の健全育成とが相まって達成されていくことが大切と考えます。

マツダ株式会社は、新しい価値を創造し、人びとの喜びをひろげていくことを経営理念として社業に精励しておりますが、このほど実施した社名変更を記念し、併せて創立 65 周年を来年に控えたこの時期に、経営理念の一端を具現することを願って、科学技術の振興と青少年の健全育成のための助成等を主な事業内容とするマツダ財団を設立し、広く社会の発展に役立てようとするものであります。この財団の趣旨が我が国だけでなく、国際的なひろがりの中で活かされれば、これに過ぎる喜びはないと考える次第であります。

昭和 59(1984)年 10 月

## 目 的 及 び 事 業

目 的： 本法人は、科学技術の振興並びに次代を担う青少年の健全育成のための助成等を行い、もって世界の人びとが共に繁栄を享受し、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与することを目的とする。

事 業： この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1)科学技術の振興に寄与する研究並びに諸事業に対する助成
- (2)青少年の健全育成に寄与する研究並びに諸事業に対する助成
- (3)科学技術の振興及び青少年の健全育成に関する講演会、シンポジウム、講座、セミナー等の開催
- (4)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

# マツダ財団は

科学技術の振興  
青少年の健全育成

分野の社会貢献を行っています。

## 科学技術の振興

- 研究助成 募集期間：例年4月下旬～5月末  
現在並びに将来にわたって解決が求められている、科学技術に関する基礎研究及び応用研究に対する助成。「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」を優先して助成。  
対象は、全国の大学及び研究機関。  
(累計件数 709件 累計金額 9億7,450万円)

- 事業助成 募集期間：例年4月初旬～5月上旬  
中国地方で開催される小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する研究会等に対する助成。  
対象は、中国地方の大学及び研究機関。  
(累計件数 271件 累計金額 2,836万円)

- 科学わくわくプロジェクト  
青少年の科学離れへの対応として、小中学生や高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し、「科学するところ」を養うことを目指した事業。  
広島大学との連携で、同大学の知的資源を活用した地域貢献プログラムとして実施。



## 青少年の健全育成

- 研究助成 募集期間：例年4月下旬～6月末  
次代を担う青少年の健全育成に寄与する研究に対する助成。市民活動との連携強化を図り、市民活動活性化に寄与する実践的な研究に注力。対象は、全国の大学及び研究機関。  
(累計件数 164件 累計金額 1億6,848万円)

- 市民活動支援 募集期間：例年10月中旬～1月中旬  
次代を担う青少年の心豊かな成長の一助となる、地域に密着した活動に対する、資金・人材・ノウハウにわたる総合支援。  
対象は広島県及び山口県の青少年関係の民間諸団体。  
(累計件数 541件 累計金額 1億6,460万円)

- 感動塾・みちくさ  
児童・生徒、指導者、ボランティアの創意工夫を育む「感動塾・みちくさ」を開催。(財)広島市未来都市創造財団との共催。

- 大学講義  
広島地区の大学を対象に開催。2013年度は、広島女学院大学にて「ボランティア論Ⅰ」を実施。

- 講演会  
本財団の活動主旨を広く皆様に知っていただく活動の一つとして開催。  
2008年12月 鎌田 實氏 「生きているってすばらしい～幸せの探し方～」  
2009年11月 茂木健一郎氏 「脳を育てる習慣」  
2010年11月 養老孟司氏 「生きる力」  
2011年11月 姜尚中氏 「『悩む力』とこれからの日本」  
2012年11月 立花 隆氏 「二十歳(はたち)の君へ」

(数値は2013年7月1日現在)

名 称： 公益財団法人マツダ財団  
設 立： 1984年10月26日  
公益法人への移行： 2010年11月1日  
所管行政庁： 内閣府  
事業の概要： 世界の人びとと共に繁栄を享受し、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与するため、科学技術の振興及び青少年の健全育成に寄与する研究・諸事業に対する助成、講座・セミナー等の事業を行う  
住 所： 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内 〒730-8670  
電話番号： (082) 285-4611  
ファックス： (082) 285-4612  
E-mailアドレス： mzaidan@mazda.co.jp  
ホームページ： http://mzaidan.mazda.co.jp/

# マツダ財団 第28回市民活動支援一覧 ―青少年健全育成―

| 活 動 名                                            | 団 体 名                         | ページ |
|--------------------------------------------------|-------------------------------|-----|
| 第6回神楽ふれあい鑑賞会ヒロシマ                                 | 神楽ふれあい実行委員会ヒロシマ               | 1   |
| 学校の裏にある公園を整備して、虫ランドづくり                           | 広島県安芸高田市立小田東小学校               | 3   |
| 家庭崩壊により非行に陥った少年達を地域の力で支え、育む活動                    | 食べて語ろう会                       | 5   |
| 学力支援活動                                           | 特定非営利活動法人 みよし子育て学び支援あすなろ      | 7   |
| 日本の伝統に触ってみよう！<br>観て・聞いて・感じて…狂言まるごと体験             | 青少年育成吉舎町民会議                   | 9   |
| 「ようこそそのさかないち」<br>～地域のだれもが集い賑わう朝市を～               | 特定非営利活動法人 夢の広場 ようこそ           | 11  |
| 障がい児の余暇活動と支援                                     | 府中町手をつなぐ親の会                   | 13  |
| 永慶寺川の多様な自然を守り、育てる活動<br>(環境美化とホテルを守り育てる活動)        | 永慶寺川の自然を守る会                   | 15  |
| 間伐材を活用したログテントづくり                                 | 特定非営利活動法人 メセナSUN-CLUB<br>学びの森 | 17  |
| 甦れ！みんなの生きがい                                      | 学生ボランティア団体OPERATIONつながり       | 19  |
| 2012年度 I PRAY定期公演・東日本支援公演                        | 特定非営利活動法人 I PRAY              | 21  |
| 三次市茂田地区における住民と小学生の協働による<br>ツキノワグマ出没対策活動          | 特定非営利活動法人 生物多様性研究所あ<br>ーすわーむ  | 23  |
| 学習機会をすべての子ども達に与えたい                               | 特定非営利活動法人 地域福祉活動支援協<br>会人間大好き | 25  |
| 子どもシェルターの運営                                      | 特定非営利活動法人 ピピオ子どもセンター          | 27  |
| 幼児～小中学生とのふれあいを大切に！                               | 府中町子ども応援隊                     | 29  |
| 行動人となれ！「-ぼくらの未来はどうなる-」<br>地球環境から知るこれから…          | 特定非営利活動法人 熱帯森林保護団体ひ<br>ろしま    | 31  |
| 安芸高田市向原町長田地区における通学路周辺の<br>竹林の環境整備および放置された資源の活用   | 特定非営利活動法人 里山環境サポートセン<br>ター    | 33  |
| 廿日市市長期宿泊自然体験活動推進プロジェクト                           | 特定非営利活動法人 自然体験活動推進セ<br>ンター    | 35  |
| 児童生徒へのフードバンク活動を通じた食育活動                           | 特定非営利活動法人 あいあいねっと             | 37  |
| 冒険遊び場 in ひろせふれあいの丘                               | ひろせ冒険遊び場運営委員会                 | 39  |
| 武術・読書を通じて、日中両国の文化を学ぼう                            | 子供友好会                         | 41  |
| 安地区まちづくりプランプロジェクト「おとなりさん」                        | 安地区まちづくりプランプロジェクト「おとなりさ<br>ん」 | 43  |
| 「三原さんさんプロジェクト」<br>手作り太陽光発電パネル＋外灯設置ワークショップ        | かんきょう会議 浮城                    | 45  |
| 「尾道空き家再生！夏合宿」小学生のためのツリーハ<br>ウス作り体験               | 特定非営利活動法人 尾道空き家再生プロジ<br>ェクト   | 47  |
| 中高校生を被災地の役に立てる人材に育てる事業                           | 特定非営利活動法人 よもぎのアトリエ            | 49  |
| 内海クリーンキャンプ                                       | 特定非営利活動法人 元気っ子プロジェクト          | 51  |
| スカイワークス                                          | 社団法人 山口青年会議所                  | 53  |
| モノづくり教室(主催エジソンの卵を育てる会)                           | エジソンの卵を育てる会                   | 55  |
| ものづくり科学教室                                        | 日本宇宙少年団 周南分団                  | 57  |
| 発達障害のある子どもや学校にいけない子ども達へ<br>の支援                   | 特定非営利活動法人 サポートクラブ翔            | 59  |
| 地域でできる先駆的多文化共生事業「外国人留学生<br>家族の子育て支援」等による親日留学生の育成 | 国際交流ひらかわの風の会                  | 61  |
| 小学生のキャリア教育「Kids Café」でカフェ運営                      | 特定非営利活動法人 コミュニティ友志会           | 63  |
| 合 計                                              | 32 件 800 万円                   |     |

|                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                 |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 活 動 名              | 団 体 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 神楽ふれあい実行委員会ヒロシマ |
| 第 6 回神楽ふれあい鑑賞会ヒロシマ | 地 域                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 広島県広島市          |
|                    | 代 表 者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 会長 伊藤 恒夫        |
|                    | 支援金額                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 20 万円           |
| 活動概要               | <p>2 つの事業の活動をさせていただいております。</p> <p>「神楽鑑賞会ヒロシマ」</p> <p>第 6 回で 8 千人近くの皆様が神楽鑑賞会にお越しいただいたことになります。また、第 1 期生～第 5 期生 350 余名の子どもたちが一生懸命稽古に励んでおります。第 6 期生も募集予定です(3 月中)。神楽を舞いたい、神楽囃子を覚えたい子どもたちに本場の神楽を、伝統文化を！多くの皆様に見ていただき、神楽の面白さ、心を一人でも多くの子どもたちの舞いたい、覚えたい、夢が叶い、礼節、連帯心が青少年育成に繋がればと、第 1 回の神楽鑑賞会ヒロシマ(20 年 2 月)開催から続けています。</p> <p>「神楽ふれあい青少年育成体験教室」</p> <p>最初の「神楽ふれあい青少年育成体験教室」は、20 年 5 月、子ども参加 58 名にて開催しました。ご指導は安芸高田市高宮町羽佐竹神楽団様にて、稽古を重ねていただいております。24 年度は、「神楽ふれあい青少年育成体験教室(11 回)」と、第 6 回神楽ふれあい鑑賞会ヒロシマで、1,500 余名の皆様に神楽鑑賞をしていただき、子どもたちに大きな大きな拍手を頂きました。</p> <p>◆実施時期<br/>平成 25 年 2 月 3 日(日) 13:00～17:30<br/>広島市立本川小学校体育館</p> <p>◆参加人数<br/>神楽ふれあい鑑賞会ヒロシマ参加者 1,500 余名(子どもたち、保護者、高齢者男女、障害のある方、車椅子の方)<br/>主催者、スタッフ、出演者(羽佐竹神楽団団員、少年少女神楽団ヒロシマの子どもたち)計 99 名<br/>参加総人員:約 1,500 名</p> |                 |



安芸高田市高宮町羽佐竹神楽からの指導者のもとで、基礎的な稽古を重ねます



先生を見習ってお稽古です



見事な舞を披露しました



神楽囃子も自分たちで演奏しました

#### ◆実施に伴う効果

当然のことですが、神楽を見たことのない、神楽に触れたことのない、市内の方、町の地域の皆様は、「神楽を通じて青少年育成の目的に通じるのか?」「神楽は知らん」と言われる人たちが大変多かったです。しかし、そのような町中、市内にあっても、本川町、広瀬町、十日市町の神社様は、「秋祭り」(土・日)の2晩4神楽団様による神楽奉納をされており、私も、51年10月の秋祭りより36年間楽しませていただき、また、秋祭りを楽しみに待っております一人です。

2、3年前より、神楽奉納の時間は、神社の境内が皆様で一杯です。子どもたちも大変多くなりました。田舎で私が子ども時代、地域の子どもがすべて友達で、共に神楽をわくわくして楽しく見ていた姿と喜びの笑顔、怖がっている表情等が重なって見えました。町の子どもたちも全く同じなのです。6年前から神楽の大好きな子どもも2～3人、親、おじちゃん、おばあちゃんと来ておられました。

本川地区社協様の総会に出席させていただくことになり、「伊藤さん、やってみんさい」とおっしゃっていただき、計画通り会則を作成し、第1回神楽ふれあい鑑賞会を開催することができたのです。2月11日建国記念の日でした。以来、2月第1日曜日を鑑賞会予定日しております。

#### ◆苦勞した点

開催日のお天気を毎年祈り続けております。心の中で一番心配をしております。第1回神楽鑑賞会開催より1,300～1,500余名の方々が入場参加下さっておりますので!晴れの天気予報や曇りを聞くとほっとしますと同時に、2日前までストーブの台数等については、毎年ギリギリまで悩みます。今年は温風ヒーター5台と決めました。体育館は寒いですし、空気が冷たいのです。去年は午後より少し寒かったと聞いておりました。3台でした。今年は全く暖かくて!暖かくて寒さを全く感じなかったと、多くの方より声を聞くことができました。私の心も良かったと笑顔になりました。また、本当に多くの皆様より、「感動した、こんな神楽初めて観ました」「主人が観に行行って帰るなり『すごかった、感動した』と言ってました!」と喜んでくださいました。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

広島県無形民俗文化財指定の伝統のひろしま神楽の楽しさ、美しい神楽が大好きな子どもたち、舞いたい、覚えたいと思う心の夢を叶えてあげ、伝統文化・郷土芸能の神楽を通じて心に残る体験・体感を「神楽ふれあい鑑賞会ヒロシマ」の舞台で舞うていただき、大好きな神楽の継承の道に繋げていただけると信じております。大好きな子ども、舞いたい!覚えたい!神楽の大好きな子どもがいる限り「神楽ふれあい鑑賞会ヒロシマ」と「神楽ふれあい青少年育成体験教室」2つの事業を続けさせていただきますように、大切に運営活動を行って参ります。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

広島市立本川小学校体育館内コーナ一杯に「第6回神楽ふれあい鑑賞会ヒロシマ」に入場下さることができましたのも、温かいご支援、公益財団法人マツダ財団殿の助成金を始め多くの皆様方のご協賛金・寄付により第6回鑑賞会も事故なく盛会裏に終えることができました。心より感謝一杯です。ありがとうございます。



|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                 |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 活 動 名                  | 団 体 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 広島県安芸高田市立小田東小学校 |
| 学校の裏にある公園を整備して、虫ランドづくり | 地 域                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 広島県安芸高田市        |
|                        | 代 表 者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 小田東小学校 校長 河下 正紀 |
|                        | 支援金額                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 25 万円           |
| 活動概要                   | <p>4 月 11 日<br/>夢配達人との対面 小田東小体育館<br/>児童教職員・夢プロ実行委員(地域振興会・行政・PTA)<br/>*関係者が一堂に会し、『虫ランドづくり』の構想や計画について確認し合う。</p> <p>4 月 22 日～9 月末<br/>『虫ランド(仮称)づくり』 小田東小裏山<br/>児童・教職員・PTA, 地域振興会<br/>*虫ランドの構想をともに語り合い, 学習活動や PTC 活動及び地域振興活動として位置づけ, 整備する。<br/>○地域振興会…公園の施設(ソリーハウス, 東屋, バランスウォーク等)建設及び整備<br/>○地域老人会…公園花壇の整備及び児童指導<br/>○児童, 保護者…作品づくり, 施設の整備, 公園の緑化・美化等</p> <p>10 月 21 日<br/>『げんき森もり ゆめランド』完成を祝う会 小田東小体育館<br/>児童・教職員・PTA, 実行委員及び地域関係者<br/>*夢の実現過程を関係者でともに喜びあい, 今後の具体的な活用する</p> <p>◆実施時期<br/>平成 24 年 4 月から 11 月 21 日 安芸高田市立小田東小学校 裏山公園</p> <p>◆参加人数<br/>児童・教職員 108 名, PTA71 世帯, 地域振興会役員 2 名<br/>地域老人会代表 6 名, 市職員 3 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:809 名</p> |                 |



5・6 年児童 34 名でトータムポールを制作中！



豊かな自然を生かした児童作品が次々に完成  
展示されていきます



ツリーハウス壁面に「虫」を描画し  
色を塗っていきます



一人の児童の夢が学校中の願いとなり、とうとう  
みんなで実現させた『げんき森もり ゆめランド』



◆実施に伴う効果

- ・一人の児童の夢が学校中の願いとなり、学校・家庭・地域が一体となって、智恵と労力を出し合い協力してその実現に向け取り組んだ。活動を通して、地域における「人のつながり」が深まるとともに、花の植栽や「学校裏山公園」にかかる歴史的経緯等の聞き取り等の学習にも発展した。
- ・児童が休憩や放課後に、公園でよく遊ぶようになった。施設等もよく活用している。
- ・授業の場、学習対象として、公園及び施設を活用し、幅広い学習活動が可能となった。
- ・家庭・地域の学校教育への支援体制が整い、学校行事等への参加者が増えた。

◆苦労した点

- ・子どもの夢を実現してやりたいという学校・地域の思いと予算額に大きなずれがあり、実質的に地域振興会とタイアップした事業として位置づけ、予算面でも大きな負担をかけた。
- ・活動内容が、施設づくり及び環境整備面が中心であり、人的支援が不可欠である。たくさんの人手を得るために、PTA活動に位置づけ、作業等の協力を得た。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・公園（施設も含め）の維持・管理を計画的・組織的に進める必要がある。当面は学校が中心となり進めるが、規模適正化にかかる統廃合の計画もあり、その後は地域に引き継ぐ筋道を確立していく。
- ・公園を児童の学習の場として位置づけ、計画的に活用していく。とりわけ「虫」については、児童の発達段階に応じて取り上げ、『げんき森もり ゆめランド 虫図鑑づくり』等につなげていきい。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・貴財団の支援のおかげで、子どもたちの夢が実現し、遊びや学習活動にも広がりができました。
- ・心から感謝申し上げますとともに、今後は、この公園をさらに活用し、子どもや地域の愛着の場として、位置づけていけるよう取り組んでまいります。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 団 体 名 | 食べて語ろう会   |
| 家庭崩壊により非行に陥った少年達を地域の力で支え、育む活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 地 域   | 広島県広島市    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 代 表 者 | 会長 田村 美代子 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 支援金額  | 20 万円     |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |           |
| <p>家庭崩壊により、三度の食事にも満足に摂れないために、万引等の非行に陥った少年たち。このように、非行少年たちに食事を提供して、地域の力で支える活動をしているのが「食べて語ろう会」である。</p> <p>空腹であるがゆえに、万引等の非行に走り、気が荒れて暴力を振るうのである。</p> <p>空腹は非行の大きな要因の一つであるとの考えを基本理念として、健全なる食育を通して、少年たちの非行防止活動をしている。</p> <p>また、地域住民の力で非行に陥った少年たちを支え、健全育成をめざす活動でもある。</p> <p>◆実施時期</p> <p>①食べて語ろう会： 毎月第1・第3日曜日午後3時～午後8時<br/>広島中央公民館 2F 調理室</p> <p>②ほぼ毎日、夕方～<br/>元保護司 中本忠子 宅（広島市中区基町）</p> <p>◆参加人数</p> <p>①毎月第1・第3日曜日、約20名×2回×12ヶ月＝480名<br/>広島中央公民館</p> <p>②約7名×300日＝2,100名<br/>元保護司 中本忠子 宅（広島市中区基町）</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：2,580名</p> |       |           |



少年たちも調理に参加しています



地域の人々がいつもこの活動を支えています



いろいろな団体から見学に来られます



少年たちも和やかに寛いでいます

◆実施に伴う効果

この「食べて語ろう会」の活動が、NHK のローカル番組として放送されて以来、見学者が多く参加している。  
法務省の更生保護委員会でも、保護観察所でも、注目を集め、全国的によく知られる活動となってきた。  
非行少年たちと呼ばれる中学生たちも、食育を通して、日々成長し、万引等の非行も減少し、良い方向に進行している。

◆苦労した点

予算について

食べ盛りの中学生在対象なので、少しでも少ない予算でボリュームのある食事を作ろうと、毎回苦労している。  
参加してくる少年達も、広範囲からやって来るし、人数も増加している。

◆今後の課題・発展の方向性

この活動は、地域住民によって支えられているが、何分にも高齢者が多く、足や腰に故障を抱えた人が多いのが課題である。  
しかし、先日から広島市内の女子大生が4～5名見学に来て、ボランティアとして定期的に参加したいとの申し出があった。  
今後は、これらの若い人々にたくさん参加してもらい、活動を発展させていきたいと考えている。

◆活動を終えての感想・意見等

長年にわたる地域住民の支えにより、非行少年たちの顔にも明るさが出てきたし、万引等の非行も減少している。  
スタッフ(地域住民)にも、気軽に話しかけてきたり、名前や顔も覚えてくれるようになりました。  
「マツダ財団」の助成金により、非行少年たちを支える活動ができることに、心から感謝申し上げます。

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |                          |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------------|
| 活 動 名  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 みよし子育て学び支援あすなろ |
| 学力支援活動 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 地 域   | 広島県三次市                   |
|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 代 表 者 | 理事長 黒田 明憲                |
|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 支援金額  | 25 万円                    |
| 活動概要   | <p>家庭の所得水準によって、児童生徒の学力の格差が大きくなってきています。学校で学力で落ちこぼれても、経費の高い学習塾に行くことも出来ず低学力のままで義務教育を終えなければならない生徒が多数います。あすなろは、こうした学習塾に行きたくても行けない「ひとり親家庭」「生活保護家庭」「経済的に恵まれない家庭」の小中学生を対象に、心の教育と学力支援を行い、「自分の進路は自分で拓く力」を育て、進路に希望を持たせる活動を行なっています。</p> <p>◆実施時期<br/>           学力支援教室(通年実施)                      場所(会場) NPO法人あすなろ事務所<br/>           子育て・進路講座(年3回)                    場所(会場) NPO法人あすなろ事務所<br/>           河川環境学習・清掃活動(月2回)           場所           馬洗川河川敷</p> <p>◆参加人数<br/>           ・河川環境学習・清掃活動の場合<br/>             あすなろ学力支援教室生徒・保護者 61 名<br/>             あすなろボランティア指導者スタッフ 11 名<br/>             地域住民有志                                      約 30 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員約 100 名</p> |       |                          |



高校に行ったら奨学金を受けようと、遅くまで頑張る中学生たち



アユに新鮮なコケを食べてもらうために、水中の石磨き。ボウズリですり落としました



河川敷の清掃活動・水中の石磨きのあとは、アユの塩焼き体験。早く焼けないかな…



三次鵜飼の鵜匠さんに話を聞きました。中国から贈られた白い鵜もいます



#### ◆実施に伴う効果

- 1 低学力のため、公立高校の定員内不合格者が三次市内でも昨年は 30 名を越えていたが、あすなろの設立が刺激となり、本年度は 10 名前後になった。あすなろ基礎学力支援教室の 3 年生 3 名は全員合格し、奨学金受給教室の 3 名も好成績で進学し保護者から大変感謝された。
- 2 子どもたちに「勉強せえー」だけでなく、地域に学びの風土を！家族に学びの家風を！を目的に、「子育て講座」の中で生徒・保護者・住民も一緒に学ぶオープンコンテスト(漢字・歴史・地理・文学等の常識問題)や「祖父母と孫の漢字講座」を実施している。回を追うに従って保護者・高齢者の参加が増えている。
- 3 NPO法人あすなろのある八次地区の真ん中を流れる馬洗川に親水公園(国土交通省・三次市)の建設が企画されているので、公園予定地を中心にした清掃活動を通して感謝と奉仕の心を育てる活動は地域社会からも高い評価を得た。

#### ◆苦勞した点

- 1 指導者の問題  
「経済的に恵まれない生徒に学びの場を与えたい」を目的に設立したので、月謝・諸経費を出来るだけ低く抑えるため、学力支援を行う賃金雇用講師を最小限に絞り、退職教職員や地域の児童民生委員等のボランティアによる頼らなければならなかった。ボランティア指導者間の教育観の違いや指導方針のバラツキが出てきて指導の限界を感じた。教育に恵まれなかった子どもたちが対象であるから、教科指導に入る前提として、「この生徒の進路をどうするか」という指導者の情熱が問われるケースが多かった。助成をいただいたおかげで、中途より英語・数学の専任講師を雇用することができた。
- 2 生徒の学力格差の問題  
生徒の学力格差と家庭の教育環境の状況で、伸びる生徒と落ちこぼれる生徒の格差が広がり、マンツーマンで教えなければならない生徒が出たため、予定より人件費が増えたが、3 月の高校受験段階には解消し、3 年生全員が希望した高校に進学した。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・ 小中学校は義務教育であるから、出来る子どもはさらに伸ばし、出来ない子どもには手をかけてでも力を引き出して、教育の機会均等の保障ということが教育本来の姿である。しかし、所得格差がそのまま学力格差となっている現状からすれば、誰かがどこかでこぼれていく子どもたちへの支援の手は必要である。背景には「貧困による負の連鎖」という大きな社会問題があるが、「暗闇の中の灯りは大きく見える」の言葉どおり、小さいながら、NPOあすなろの取り組みが子どもや保護者の心の拠りどころとした。あすなろの館がもっともっと学びの場となり、安らぎの場となるよう次の活動を加えていきたい。
- ・ 不登校・いじめ・問題行動などで悩む生徒や保護者の「かけこみ塾」。
- ・ 学校現場の先生たちの「悩み相談塾」。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

- ・ 暗い表情でやってきた子どもたちが明るくなって卒業していく姿に苦勞が吹っ飛びました。お金で買えない感動です。
- ・ 学力支援教室に来る生徒たちの言葉に「ありがとうございます」の言葉が増えました。
- ・ あすなろでは「この前教えたじゃあないか、また忘れたんか」は絶対禁句。ボランティアで参加して学びました。
- ・ 「楽しく学ぶ」から「厳しさを超えた学ぶ喜び」を実感させる学力支援教室に発展させたいです。
- ・ 生徒に教えたというより、生徒から「生きがい」をもらいました。生徒のみなさんありがとう。
- ・ 助成金をいただきありがとうございました。私たちの活動が「マツダ財団から認められた」ことがとても励みになり元気ができました。

|                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |             |
|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 活 動 名                                | 団 体 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 青少年育成吉舎町民会議 |
| 日本の伝統に触ってみよう！観て・聞いて・感じて<br>…狂言まるごと体験 | 地 域                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 広島県三次市      |
|                                      | 代 表 者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 会長 吉崎 秀峰    |
|                                      | 支援金額                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 20 万円       |
| 活動概要                                 | <p>日頃、生の芸術文化に触れる機会が極めて少ない子どもたちに、日本の伝統文化である「狂言」を間近で鑑賞し体験することにより各々の精神世界を拓け、新しい社会を創造する感性を育むことを目的として実施した。</p> <p>公演にあたっては、中学生のボランティア 2 名に、運営に参加してもらって準備段階及び公演当日にスタッフの一員として受付やワークショップ参加者の招集係として役割を担ってもらった。</p> <p>また、各学校から希望を募り、公演の舞台に上がり所作や発声などをプロの狂言師の教授により体験してもらう時間を設けた。</p> <p>◆実施時期<br/>2012 年 7 月 8 日(日) 開場 午後 1 時 開演 午後 1 時 30 分<br/>吉舎生涯学習センター ホール</p> <p>◆参加人数<br/>大人(高校生以上) 241 名<br/>子ども(小・中学生) 45 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:286 名</p> |             |



平成 24 年 7 月 8 日開催  
茂山狂言鑑賞会 受付風景



中学生ボランティアも、  
受付スタッフとして大活躍！



ワークショップ  
会場全員で狂言師なりきり体験



狂言「柿山伏」



## ◆実施に伴う効果

### 【子どもたち】

- 1 「思ったより難しくなかった。」「面白い。」という感想が多く、日本の伝統文化への興味の芽を育てることができたように思う。
- 2 茂山狂言会に工夫していただき、ワークショップで舞台にあがった者だけでなく、会場に集まった老若男女、お客様もスタッフも会場ぐるみで立ち姿勢や笑い方など狂言師なりきり体験をさせていただいたことが印象に強く残ったようで、「狂言師になりたい。」とアンケートに答える子どももいた。

### 【大人】

- 1 高齢の方でも生の狂言公演をご覧になったことのない方も多く、狂言という“笑いの文化”の奥深さに触れて感激されていたが、併せて私達の活動も知っていただけて、「また意義深い催しを期待している。」との言葉を多くの方にかけていただいた。ある高齢の女性は「いい冥土の土産ができた。いつ逝ってもいいわ。」と話された。このことから多くの方が、今回のような文化的な催しを望んでおられるのに、行政の広域化や財政難などの理由から企画し実行する主体が現れない地域の現実が浮き彫りにされた。
- 2 教科書に載っている演目であったこともあってか、三次市内全小中学校にポスター掲示をした効果か、小学校の先生方が多く見えられて、生の狂言を体験し、今後の授業に活かしたいと言っておられた。吉舎町の子どものみならず市内のすべての子どもに私達の取り組みが良い効果を生めばという願いもあったので嬉しい言葉だった。

### 【スタッフ】

- 1 最初は、私達のような小さな団体では手に余る取り組みと成功を危ぶむ意見もあったが、予想を超える来場者と来場者の笑顔や感謝の言葉に、若いスタッフにも少なからず自信を深めた様子が見えた。子ども達の健全育成に取り組む私達の活動の鍵は、子どもたちの一番そばにいる若いお父さんやお母さんが如何に真摯に取り組む周囲を巻き込んでいくかであり、その意味でも企画立案や訴える場づくりのノウハウを多少なりとも伝えられたのではないかと考える。

### 【狂言会】

- 1 最初に、私たちの団体の目指すものや公演を通して伝えたいことを事務局の方と十分に話し、会場の図面を送って動線の確認までしていただいたおかげで無駄なく効果的な催しとなった。特に、前述した会場ぐるみのワークショップは、小さい会場ならではの試みで、お客様はこれで一気に狂言の世界に引きずり込まれたように思う。プロの凄みのようなものを感じた。

## ◆苦労した点

- 1 当初は、実行委員会形式で子供たちの代表との直接的な話し合いを計画していたが、クラブ活動や塾通いなど子どもたちの実態のなかで変更せざるを得なかった。そのため、小中学校の保護者をスタッフの一員とし、彼らを通じて子どもたちの意見や思いを吸い上げる形にとどまった。また、スタッフが若返ったことは嬉しいことだが、こうした事業に取り組むノウハウを知らないため事務局長頼みの部分が少なからずあり、時間的な制約の中で十分な話し合いもせず仕上げてしまった部分は反省点である。いつかは訪れる世代交代を円滑にするためにも、もっと自発的な提案を促したりよりよい催しにするための研究心を育てたり、若い世代のスタッフを教育していく必要を感じた。
- 2 ワークショップへの参加について、当初は広報紙や町内の無線放送を利用したが、申し出がなく、町内の小中学校を巡回して人選をお願いした。しかしながら、校務が繁忙を極めるせいか学校側からの積極的な反応はなく、スタッフの人脈によりお願いすることとなった。
- 3 子どもたちに生の伝統文化に触れてもらうことを目的とし、より参加しやすい料金設定にしたため、当初予想していない遠隔地(県外)からのお客様や高齢の方が多く、肝心の子どもたちが予想よりも少なかった。学校の高学年担当の先生方には、思いを伝えつつもであったが不十分だったのかと反省するとともに、今後はPTA組織との連携をより密接にして、保護者への浸透を図ることを考えていきたい。

## ◆今後の課題・発展の方向性

- 1 町民会議の会員は働き盛りの保護者が多く、昼間の活動が制限されるため大きな事業を展開する場合のネックになる。また、不安定な雇用や変則的な勤務シフトの合間を縫って参加してくださっている方も多い。会議にも全員が揃うことが珍しく、会議の進行役である事務局長と部長が、事前に会議の方向性を確認し、資料を作成して効率的な会議を重ねることが肝要である。欠席した会員への報告等丁寧なフォローを忘れないことも重要だと考える。
- 2 事業が終わった後の検証・反省もしっかり行いたい。  
演者の送迎の関係で、会場の後片付けや借用品の返却を部長ほか若いスタッフに任せましたが、現場責任者の確認が足らず、会場側から事務局長に後片付けの至らない点を指摘する電話をいただいた。これを良い機会と捉え、若いスタッフの育成に生かしていきたい。今回、参加された方は皆さん満足され、次回に期待を寄せる意見も多数聞いている。  
私達の組織の認知度も継続的な取り組みを地域の皆さんに評価いただき数年前と比べ、格段に上がっている。今後も町民がこぞって参加できる催しを通じて、町ぐるみで青少年の健全育成に取り組める環境を育てていきたい

## ◆活動を終えての感想・意見等

組織的には大きな挑戦でしたが、若いスタッフの頑張りで成功に導くことができ安堵しています。この若い会員(お父さん・お母さん)のボランティア精神の芽を大きく育て、我が子だけでなくすべての吉舎町の子どもたちが瞳を輝かせて暮らせる環境づくりを継続していく仕掛けをしていきたいと思います。

マツダ財団の皆様には予算面でのバックアップをいただき有難うございました。予算面での不安が払拭されたことが、大きなイベントを控えての精神的な圧迫感をずいぶん和らげてくれた気がします。

茂山狂言会の役者さんにも、お客様の息遣いが聞こえる小さな会場で一体となった催しが創れて満足いただいたようでした。

5人の役者さんと新尾道駅で再開を約して握手した感触が忘れられません。

小さな失敗もありましたが、会場いっぱいのお客様の笑顔と感謝の言葉を糧に、今後も地域にサプライズを届けていきたいと思っています。

|                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                    |
|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 活 動 名                        | 団 体 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 特定非営利活動法人 夢の広場ようこそ |
| 「ようこそさかないち」～地域のだれもが集い賑わう朝市を～ | 地 域                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 広島県広島市             |
|                              | 代 表 者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 理事長 池岡 洋子          |
|                              | 支援金額                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 25 万円              |
| 活動概要                         | <p>障害者施設の建設・誘致を目指して活動していることを地域に知ってもらうために、活動していることをより多くの方に知ってもらう活動である。</p> <p>昔からあった「魚市」を復活させて、地域住民の結束感を高め、障害者理解をも深める場とした。活動の趣旨に賛同してくださる多くの方の協力、出店、出演を得て、盛大に行うことができた。</p> <p>◆実施時期<br/>日時平成 24 年 5 月 27 日(日) 9:00-13:00<br/>JR 井原市駅前広場 通称「夢の広場ようこそ」</p> <p>◆参加人数<br/>ボランティア 20 名<br/>出店協力 50 名<br/>出演者 30 名<br/>来場者 200 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:300 名</p> |                    |



テントは助成金で購入したもの。二張りのテントからはみ出るほどのフリマ商品の山！



ステージの合間に買い物をしたり、お茶を飲んだり…寛ぎの時間、なごみの場「さかないち」



ご当地ヒーロー、メープルカイザーも登場!!  
子どもたちも楽しんだ



メインイベントはジャズオーケストラの生演奏!!  
前列で歌う二人はスタッフのともちゃん、なおさん。  
ビッグバンドの音に負けじと声を張り上げる

#### ◆実施に伴う効果

##### ①障害者、その家族の立ち位置～交流の深まり

障害者(や、病者、高齢者)は、ただ支えてもらう、ケアしてもらっただけで事足りているわけではない。彼らなりに何か能動的に関わりたいと思っている。しかし現実には、とすると、招待され、お客様扱いされてしまう。私たちの広場では、できるだけだれもが対等に付き合えるような運営を工夫している。それによって、健常な方が障害者との接し方を考え、普通につきあっていただけになってきた。

##### ②活動と地域との関係性～協力関係の構築

地域にはいろいろな支援団体がある。「ようこそ」は支援団体に頼りきるのではなく、できるだけ自力でやりたいと考えやってきた。

「さかないち」という地域の昔ながらの行事をイベント化するにあたって、社協をはじめいろんな団体が動員等で協力をしてくださることになった。これをきっかけとして、その後も落語会等、ようこそ企画なら…と社協、自治連等、地域の有力な団体の協力を得られるようになっていく。今後も、頼りきるのではなく、協力していただけるよう、がんばっていききたいと思う。

##### ③毎月実施する朝市、その拡大版としての「さかないち」だったが、おかげで地域、町内外に広く知っていただく機会となった。朝市への協力者や、その他の活動への参加者が少しずつだが増えてきている。また地域の方々の理解も確実に増してきていることを実感している。

#### ◆苦勞した点

過去に5年間、「朝市」を続けているので、ある程度ノウハウがあり、イベントそのものの立ち上げには多くの苦勞はなかった。

ただし、今回は手に余る規模のイベントになってしまったため、人員不足を露呈してしまい、協力してくださる方たちに、迷惑をかけることが多々あった。

ボランティアをしてくださる方が多くが年配の方のため、事前の計画や段取りが十全でないと、うまくいかなかったり、感情的な議論が現場でおきたりした。それぞれ上手に矛を収めて大人の対応をしていたが、準備段階でもっと細かなところまで詰める必要があったと猛省している。

300坪(1000m<sup>2</sup>)は広いと考えていたが、これだけの規模の会になると、手狭である。駐車場を外部に確保したとはいえ、来場者の多くは車を近くに駐車しようとされる。事故こそ起きなかったものの、かなりの混雑で不愉快な思いをされた方もあった。急きょ、駐車場係を配置するなど、応急処置が行った。

やってみないとわからなかったことが多々あって、現場の臨機応変な対応に委ねることも多く、こうしたイベントのプランニングや、実施者としてたくさんのスタッフに慣れて行ってもらえない部分もあった。これからは続けて経験を増すことで、いい「朝市」「さかないち」に成長させていきたい。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

##### 継続

参加してくださる方からはたくさんの謝辞や労いのことばをかけていただいた。次年度への協力を約してくださる方もあった。継続していくためにどうするかが、今後の課題となっている。また、障害者の関わりをさらに増やしていくことで、より一層「ようこそ」が行う意味と意義があると考えられる。その点についても、前向きに取り組んでいきたい。

##### 周知活動

チラシや新聞折り込みがどの程度効果があるのか、費用対効果に明確なものがないのが実情だが、多くはないものの、時々読んでいるという言葉をもらうことがある。また記録に残していくことで、メディアからの取材の際等に説明素材として使えることもある。「さかないち」の際には新聞折り込みを入れる範囲を拡大した。これは費用がかかるが、インターネットでのHPの作成等、これまでも課題としてきたことに取り組む必要を痛感する。

##### 人材

継続のため、周知活動のために、新しい人材が必要だ。若い人(に限らないが)、新しい人との出会いの場をたくさん作ることを今後の課題の第一番におきたいと思う。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

丸5年の活動に一つの区切りをつけるべく、大がかりなイベントを組む年になりました。年初にマツダ財団様の助成金を申請し、4月には助成していただくことが決まって、励みになりました。とすると書類を作るのさえ億劫で、現場の作業だけをできるならどれだけ楽か、などとも思いましたが、こうして1年を経してみると、支援いただいたお金で購入させてもらった「テント」2張りは、当日だけでなくその後も、絶大な威力を発揮してくれています。申し訳ないことに、テントにロゴをプリントすることをしておりませんでした。今後、思いを同じくするみなさんへの情報提供として、マツダ財団様の援助によってテントが張れていることを示すカードと一緒につりさげたいと考えています。とても助かりました。

雨につけ、晴れにつけ、屋根があることはありがたいことです。

今後とも私どもの活動にご支援いただく機会がありますことを念願しております。

ありがとうございました。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       |             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 団 体 名 | 府中町手をつなぐ親の会 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 地 域   | 広島県安芸郡      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 代 表 者 | 会長 松本 真理    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 支援金額  | 15 万円       |
| 障がい児の余暇活動と支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |             |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |             |
| <p>主として月 1 回定例会を聞き、情報交換や余暇活動の準備をしている。余暇活動は、プール、リズム、スポーツ、音楽、料理など様々な活動を実施し、一人一人が興味、関心を持ち、力を発揮できる活動を考える。また、周囲の人たちへの理解を深め、共生できる社会づくりを目指し、研修会等を提案する。</p> <p>①(子どもの自主的活動のある)夏祭り<br/>②バス遠足<br/>③保護者反省会</p> <p>◆実施時期<br/>①夏祭り 8/25 (土)府中町老人福祉センター福寿館<br/>②バス遠足 10/21 (日)やまだ屋おおのファクトリー、ちゅーピーパーク<br/>③保護者反省会 12/6 (木)ソレイユ内飲食店</p> <p>◆参加人数<br/>①夏祭り大人 15 人、子供 22 人、ボランティア 33 人<br/>②バス遠足大人 8 人、子供 10 人、ボランティア 5 人<br/>③保護者反省会大人 15 人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:108 名</p> |       |             |



バス遠足！ちゅーピーパークにて集合写真



夏祭り トントン相撲



夏祭り ぶんぶんゴマ作り  
ゴマに好きな色付けをしています



夏祭り  
みんな大好き！流しそうめん

◆実施に伴う効果

- ①障害のある子供は普段助けられる側であるが、障害児が集まる中でお互いを助け合う行動がみられた。また、ボランティアさんと仲良くなり、積極的に話しかけたり、一緒に遊んだりする行動がみられた。
- ②バス遠足  
館内での取り組みが多い中、屋外での活動、団体行動の支援の方法を学ぶことができた。
- ③来年度に向けた話し合いをしたほか、月 1 回の定例会ではなかなか話せない、わが子に対する悩みや不安等を同じ障害を持つ保護者同士で、話し合うことができ、とても有意義な時間となった。

◆苦勞した点

- ①夏祭り  
子供と積極的に関われるボランティアが少なく、子供とどう向き合っているのか理解できていないような感じがした。ボランティアから子供へ積極的に声かけをし、子供と一緒に遊んでもらえるよう、保護者からボランティアへの声かけもしていきたい。
- ②バス遠足  
各校の学校行事を優先すると日程調整が難しく、今回は他の行事等と重なった人も多く、参加人数が少なかった。参加希望者になるべく参加できるよう、きちんと日程調整を行いたい。また、今回は観光シーズンの 9 月に実施したため、貸切バスを手配するのが難しかった。
- ③特になし

◆今後の課題・発展の方向性

- ①夏祭り  
それぞれの子供たちができる取り組みを見直し、少しずつ自主的な活動を楽しくできるよう増やしていきたい。
- ②バス遠足  
広範囲での行動の仕方、ボランティアの支援の仕方など多くの課題はあるが、活動の枠を広げ、屋外での活動も取り組みたい。  
ボランティアとの事前打ち合わせ、確認事項を明確にし、実施したい。
- ③保護者はわが子に対してたくさん悩みを抱えているが、なかなかゆっくり話せる機会がない。定期的にこのような会を設け、お互いに話し合える時間が持てるといいなと思った。

◆活動を終えての感想・意見等

支援していただいたおかげで、例年にない活動を実施することができました。有意義な活動となり、子供たちの笑顔をたくさん見ることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。  
今後ともご支援をよろしくお願い致します。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |      |             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------|
| 活動名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 団体名  | 永慶寺川の自然を守る会 |
| 永慶寺川の多様な自然を守り、育てる活動(環境美化とホタルを守り育てる活動)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 地域   | 広島県廿日市市     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 代表者  | 代表 山本 満彦    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 支援金額 | 20 万円       |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |             |
| <p>ふるさとの永慶寺川の自然を守り、多様な生きものが生息できる豊かな自然環境を取り戻し、次世代に引き継ごうとする活動です。</p> <p>【自然観察】当初計画の自然観察を直接自然と触れ合いながら楽しみ、理解しやすくするための方策に変更した。具体的には、子どもたちとの自然素材を使った創作活動や野遊びの会を年に4回行った。指導員は広島工業大学福田ゼミ生が担い、AKG いいとも隊がサポートした。</p> <p>【ホタル教室】一般参加の家族と一緒にホタルの観察と飼育、産卵から幼虫の育成までおこなった。今年度はホタル家族の負担軽減のために大型施設を設置した。また、自然のかたちに近いミニ・ビオトープを設置した。</p> <p>【総合学習支援】大野東小学校の4年生の総合の環境学習で川の清掃や観察の実践活動に加えて、学校の依頼により、ホタルの飼育を通して、川の環境を考える学習に発展させました。6月から翌年3月までの年間計画に基づき実施しました。</p> <p>◆実施時期<br/>平成24年4月1日～平成25年3月31日<br/>廿日市市大野地区の永慶寺川(高見～別府～知安)、大野地区集会所</p> <p>◆参加人数<br/>①野遊びの会 53名<br/>②ホタル教室 45名<br/>③総合学習『ホタル学習』678名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:776名</p> |      |             |



育てた幼虫を川に放流



ホタルへの想いをオルゴール曲に



AKG いいとも隊の野遊びの会



総合学習・ホタル学習の風景

#### ◆実施に伴う効果

- 1 永慶寺川に自然を守ることへの関心度を高めることができた
- 2 ホタル教室では、親子でホタルの観察から幼虫育てを行って、昔のように、ホタルがいっぱいになる夢の実現に向けて、一緒に考え、行動することができた。
- 3 AKG 野遊びの会では、自然観察を具体的な体験を通して、自然にじかに触れ合うことができ、身近な永慶寺川の自然に親しみ、素晴らしいことを体感してもらった。
- 4 リーダー役の大学生たちにとっても、自ら考え、指導方法を工夫して、子どもたちと遊びながらどのようにして、自然に大切さを伝えるか考える機会になったようだ。来年もぜひやりたいという声の実証している。
- 5 総合学習の支援では、子どもたちに永慶寺川のごみ拾いの実践活動に加えて、ホタルの観察・幼虫の飼育を通して、川のはたらきや生き物が棲める川の大切さを学ばせる機会をつくることができた。
- 6 地球温暖化防止などの座学研究に加えて、川辺の生き物調査や干潟観察などを食えた実践から学ぶ環境学習としての成果は先生方の努力が実っているように感じた。
- 7 大野東小学校では、今年度の取り組みの成果を認め、来年度もホタル学習を実施すると早々に決定し、学年連携を行う、珍しい学習発表会に取り組むことになった。
- 8 子どもたちの学習の成果を形にすることが必要だと考え、子どもたちが、一文字ずつ書いた『永慶寺川をきれいにしよう』と言う呼びかけの看板を作り、実際に堤防に建てることができた。(裏面に学習の取り組みや自分たちの想いを綿々と描いている)

#### ◆苦労した点

- 1 ホタルの飼育は、今年度も優良な成果とは言えなかったが、難しさと同時に改良点も把握できた。石の上にも3年だ。来年は1000匹を目指します
- 2 ホタル飼育のための施設を整備したが、十分ではなかったのも、来年度も改善及び追加整備を行うこととした。
- 3 地域へのPRは、必ずしも十分ではなかった。地域の人と親ホタルの採取のときに、トラブルが起こり、理解していただくための説明に時間を要した。一部では、まったく無理解な人たちも出現し、私たちの活動を非難するような人も出てきた。
- 4 AKG いいとも隊では、ボランティア活動として、堤防、河川愛の草刈りとゴミ拾いを行っていますが、シルバー人材センターの請負作業員と間違えられている。
- 5 フリーペーパーや新聞で、活動の一端を記事にってもらうことが広く知ってもらえる機会となり、活動の趣旨の理解の助けになると考えています。積極的な情報提供を行っている。
- 6 野遊びの会では、子ども参加が少なかったが、笑顔と喜びに励まされ、大学生のお兄さんお姉さんががんばってくれました。
- 7 活動の資金にマツダ財団の助成金を大変有効に活用させていただきました。感謝しています。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- 1 ホタル教室をさらに改善して、AKG ホタル友の会にして、飼育の精度を向上したい。
- 2 野遊びの会は、学校にもPRして、地域の子どもたちの放課後遊びや原体験のきっかけづくりになるようにしたい。
- 3 総合ホタル学習は、大野東小学校と協働で、継続して行えるようなシステムにしていきたい
- 4 永慶寺川が地域の自然および、景観に役立っていることを、皆さんに知ってもらえるように、また実際に感じてもらうことが一番なので、日ごろから、自然を守るための生活スタイルの啓発にも努めたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

一過性の取り組みでないのもので、この活動に賛同して AKG いいとも隊のスタッフ(会員)が増えることを真剣に望んでいます。

|                                                                                         |                                                                                                                                        |                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 活 動 名                                                                                   | 団 体 名                                                                                                                                  | 特定非営利活動法人メセナ SUN-CLUB 学びの森 |
| 間伐材を活用したログテントづくり                                                                        | 地 域                                                                                                                                    | 広島県東広島市                    |
|                                                                                         | 代 表 者                                                                                                                                  | 理事長 藤原 忠治                  |
|                                                                                         | 支援金額                                                                                                                                   | 30 万円                      |
| 活動概要                                                                                    | 子どもたちの自然やものづくりに対する興味関心を高めるとともに、粘り強く最後までやり遂げることやみんな<br>で協力することの大切さ、完成した時の達成感や感動を体験させるために、平成 24 年 5 月～7 月にかけてヒ<br>ノキの間伐材を活用しログテントを作りました。 |                            |
| ◆実施時期<br>平成 24 年 5 月 20 日、6 月 17 日、7 月 15 日<br>東広島市志和町 なみ滝藤原園                           |                                                                                                                                        |                            |
| ◆参加人数<br>子ども 学生ボランティア 大人<br>5/20 12 人 5 人 6 人<br>6/17 16 人 3 人 6 人<br>7/15 11 人 5 人 5 人 |                                                                                                                                        |                            |
| 参加総人員:69 名                                                                              |                                                                                                                                        |                            |



デッキづくり



ログテントの骨組みづくり



高い所もへっちゃら



‘ZoomZoom はうす’ できたー！！



#### ◆実施に伴う効果

子どもたちは、自分たちでログテントを作るのは無理と思っていたようですが、みんなで協力し完成させたことで達成感を味わい、粘り強く最後までやり遂げること、協力することの大切さを学びました。

電動ドリルを使ったりログテントの骨組みを組み立てたりするのは、子どもには大変で難しい作業だったようですが、少しずつ形ができて行くのが見え楽しかったそうです。活動を通してものづくりの楽しさを伝えることができました。また、作り方がわかったので友達と一緒に作りたい、もっと大きい小屋をつくりたいという希望もあり、子どもたちの自信と意欲を引き出すこともできました。

活動に関心を持ってくれる大学生が増えました。これまでの活動の手伝いは女子学生が主でしたが、ログテント作りには男子学生も毎回2～3人参加してくれました。

NHK のローカルニュースと中国新聞で取り上げられたことで、多くの人に活動を知ってもらうことができました。

#### ◆苦勞した点

特にこれと言った苦勞は感じませんでしたが、活動日が学校や地元の行事、スポーツ少年団の試合等と重なりキャンセルが相次いだ時は辛いものがありました。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

ログテントづくりは、自分でテントを作ってそこに寝るという夢とワクワク感のある活動だと思います。できるだけ多くの子どもが体験できるよう継続できればと思いますが、いかにして製作に必要な費用を捻出するかが課題です。

今回は初めての試みであり、子どもたちがどの程度できるか分からなかったためキットの組み立てという形をとりました。今後は製作に時間をかけ、キットの製作段階から子どもたちが関わっていくようにしたいと思っています。

活動に関心を持ち参加してくれる大学生が増えたのは大変嬉しいことなのですが、子どものサポートが上手くできない学生もいました。学生が効果的に活動に関わり指導者として成長できるよう、学生の講習会を計画しています。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団から支援をいただいたおかげで、子どもたちに夢のある貴重な体験をさせることができました。ありがとうございました。

子どもたちはキャンプでログテントに泊まりたかったのですが、全員が入ることができないため我慢して大学生に譲りました。かわいそうなことをしました。この活動を継続し、子どもたち全員がログテントに宿泊できるようにしたいものです。

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |                           |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------------------|
| 活 動 名       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 団 体 名 | 学生ボランティア団体 OPERATION つながり |
| 甦れ！みんなの生きがい |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 地 域   | 広島県東広島市                   |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 代 表 者 | 代表 高橋 大海                  |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 支援金額  | 50 万円                     |
| 活動概要        | <p>活動目的・内容</p> <p>当活動は「震災復興支援」と「次世代人材育成」を特徴とし、以下 3 つの目標のもとで活動を展開した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.震災復興ボランティアの企画・運営・参加を通じて、学生に気付きと学びをもたらすこと</li> <li>2.被災地域の住民の間に交流を生み出し、包括的な地域活性を目指すこと(地域連帯)</li> <li>3.東北被災地域と広島が、学生を通してつながり、対象地域に継続的な生きがいの創造をもたらすこと</li> </ol> <p>広島大学学生が、被災地の住民の生きがい創造のために、精神的健康を維持することを目的としたボランティアを組織し、全ての企画、運営、報告活動等を行った。被災地の学生、住民、自治体と協力し、現地主導の復興活動が継続的に行われるよう当初の計画も柔軟に変更を加えながら試行錯誤を繰り返し、活動を進めていった。</p> <p>活動内容</p> <p>広島大学大学生によって東北への派遣部隊「つながり隊」を結成し、各派遣において以下のような活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つながり隊 5 次派遣先遣隊 被災地域のニーズ調査</li> <li>・つながり隊 5 次派遣             <ol style="list-style-type: none"> <li>①宮城県石巻市の現状視察、②子ども支援、③東北の学生とのワークショップ「つなトーク」、④仮設住宅にて交流会</li> <li>⑤仮設住宅の世帯訪問、⑥いちご農園手伝い、⑦畑の掘り起し作業(ボランティアセンターを通して活動)</li> </ol> </li> <li>・つながり隊 6 次派遣先遣隊 被災地のニーズ調査</li> <li>・つながり隊 6 次派遣             <ol style="list-style-type: none"> <li>①宮城県石巻市の現状視察、②山元町の現状視察、③仮設住宅にて交流会、④仮設住宅の世帯訪問</li> <li>⑤A 石巻市スタディーツアー参加(小グループに分かれて活動)、⑤B 自宅避難されている方への支援(小グループに分かれて活動)</li> <li>⑤C ワークショップ実施(小グループに分かれて活動)、⑤D ボランティアセンターの活動へ参加(小グループに分かれて活動)</li> <li>⑥高校生対象のワークショップ実施</li> </ol> </li> </ul> <p>また、各派遣終了後には報告書を作成し、報告会、展示会を開催し、出前講座を通して被災地の様子を伝える活動を行ってきた。</p> <p>◆実施時期</p> <p>期間 2012 年 4 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日、 場所 宮城県石巻市、仙台市若林区、岩沼市、亶理郡亶理町、山元町</p> <p>つながり隊 5 次派遣先遣隊 2012 年 7 月 13 日～17 日、 つながり隊 5 次派遣 2012 年 8 月 20 日～31 日</p> <p>つながり隊 6 次派遣先遣隊 2013 年 1 月 17 日～21 日、 つながり隊 6 次派遣 2013 年 3 月 3 日～14 日</p> <p>◆参加人数</p> <p>広島大学学生 延べ 53 名、 被災地域の学生 延べ 18 名、 被災地域の高校生 延べ 40 名、 仮設住宅住民 延べ 100 名</p> <p>参加総人員:延べ 211 名</p> |       |                           |



つなトーク  
現地学生と東北の未来について熱い議論を交わしました



交流会  
仮設住宅で手芸を通じてたくさんお話をしました



高校生ワークショップ  
亶理町の高校生と震災復興について話し合いました



農地復旧  
津波で被害を受けた農地で瓦礫を取り除いています



### ◆実施に伴う効果

今回の震災復興活動では、被災地の大学生・高校生と共に活動を行った。そこで、彼らと農園の方々がつながり、高校生は活動後も自主的に農園のボランティアに訪れるようになった。また活動後、大学生を中心に現地で震災支援活動を行う団体を立ち上げたいという声があがった。これについて、現在、運営や連携方法等を議論している。本活動の働きかけにより、被災地に暮らす学生の間で、それぞれが持っていた復興を目指したいという共通の思いを結びつけることができ、また被災地の人々の自立を促進することができた。

また、当団体はこれまで被災地の大学生・高校生が主体的に支援活動を行うための動機づけやきっかけづくりとして、仮設住宅での交流会や世帯訪問を被災地に暮らす大学生・高校生と共にやってきた。つながり隊第 6 次派遣では、そのような実質的な活動に加えて、現地の高校生を対象としたワークショップを開催し、亘理町についての想いやボランティア活動への想い、またこれからの活動についての考えを高校生と共有し議論することができた。このワークショップに関して、参加した高校生にアンケートを行ったところ、「今後も継続して大学生(当団体メンバー)と交流・活動を行っていきたい」「ボランティアから支援を受けて受け身になるだけでなく、一緒に活動することで被災者も自立につながるのではないかと気づいた」といった声が出た。

最後に、第 6 次派遣において、今まで 6 度にわたり継続して派遣してきたからこそその成果が見られた。当派遣で活動した仮設住宅の多くは、過去の派遣においても活動を行ってきており、交流会に参加したある住民の方が、「OPERATION つながりが来るって聞いたから、来たよ」と仰っていた。これは、私たちが仮設住宅の住民の方々とながりを築き、それを育ててきたからこそその結果であり、私たちの存在が僅かなりにも被災地の人々の心に明るい光をもたらしていたら、それは何よりのことである。

### ◆苦勞した点

限られた活動期間中にメンバーひとりひとりがしっかりと計画してきたものを実施できるように、メンバーの健康状態を良好に維持することが非常に苦勞した。特に第 5 次派遣においては、夏の猛暑とタイトなスケジュールの中で、数人のメンバーが体調を崩した。この対処として、日々のミーティングの終了時間を早めることや休養時間を増やすなど対策を講じ、最も神経を使った。今後の派遣では、メンバーが万全な状態でボランティア活動に専念できるような環境を確保することへ計画段階から注意を向ける必要がある。

次に苦勞した点は、メンバー間の意識の差である。本派遣メンバーの多くが、初めて被災地に行きボランティアをするという人たちであった。活動準備段階において、一度被災地に訪れたメンバーは以前出会った人々との思い出が企画準備段階のモチベーションとなっていた。しかし、初めて被災地に訪れるメンバーは、そのようなことがないため、時にモチベーションを持続することが困難であった。企画準備段階では、企画を成功させるための準備に頭が向いてしまい、しばしば被災地のことが頭から離れがちになる。こういった意識の差を解消するために、今後の派遣準備段階では、被災地のことを考えるワークショップを行うなど、様々な工夫を取り入れていきたい。

### ◆今後の課題・発展の方向性

以下、これからの活動の方向性を主に 3 つ挙げる。

#### 1. 1 つの地域に集中的かつ継続的な支援をしていく

今回の派遣において、被災地の状況が大きく変化してきていることに気付いた。震災から 1 年半以上が経過し、仮設住宅に暮らしていた人たちに新たな動きが生じていた。新しく家を建て、そこへ移り住む人や、自治体が建てた公営住宅に移り住む人が出てきた。一方で、未だに仮設住宅にとどまっている人もいる。このように、仮設住宅において様々な立場の人が出てきている。このことにより、仮設住宅で積み上げられてきたコミュニティが衰退し、人々のさらなる心の健康悪化が懸念される。したがって、現地の人々の心に寄り添う活動の必要性が再び高まっている。これを受けて、当団体は一つの地域に集中して、継続的に現地の人々の心に寄り添う活動を行っていききたいと考えている。

#### 2. 高校生との関係作りを段階的にやっていく

今回の派遣では、現地高校生との関係作りを重要な目的のひとつとして掲げていた。これは、現地高校生から私たちと一緒に震災支援をしたいという声が寄せられたことと、そういった意欲を持った高校生が主体的に震災支援に取り組むための機会をづくりたいという、2 つの理由から始まった。しかし、実際に関係作りを試みたところ、いくつか反省点があがった。例えば、高校生を対象としたワークショップを行う上で、事前に情報共有をあまりしていなかったため、参加したつながりメンバーと、高校生の意識に大きなギャップが生じたことや、高校生からの自発的な意見が少なかったことが挙げられる。その一方で、ワークショップではなく、仮設住宅での交流会で一緒に活動した高校生からは、「また活動したい」「楽しかった」などという肯定的な感想が多くあった。このことから、まずは一緒に活動をして、その後ワークショップなどの話し合いの場を設けるといった風に、段階を踏みながら高校生との関係作りを行う必要がある。

#### 3. 次の地震災害にそなえる

今回の派遣の主要な目的のひとつは、防災について被災地の教訓から学ぶというものであった。防災レクチャーをしてくださった現地の方々には、「この震災の教訓を次に生かしてほしい」と言っていた。当団体は、こういった現地の人々から得た教訓を次の災害に生かすということ、また南海トラフ巨大地震の発生が懸念されていることの二点から、自分たちが住んでいる地域の災害や、他の地域で地震災害が起こった時に、率先して行動できる団体作りと、地域の人々への次の災害準備のための啓発活動を行っていききたい。

以上の活動の方向性を軸に、今後も学生を主体とした震災復興支援を展開していく。

### ◆活動を終えての感想・意見等

1 年に渡る手厚いご支援、誠に感謝致します。おかげさまで、震災発生以来、継続的に被災地に向き合った活動を行うことができました。1 年間の活動において被災地のどこにニーズがあるのか、またどこが問題なのかといった問題発見に始まり、どのような手法、活動を行うかという活動企画、そして活動に協力してくれた方々や、他の広島の人々に対する活動報告といった一連のプロセスを完結しました。その中で、問題発見力、企画力、表現力など社会で必要とされる力を養ったメンバーが多く見られました。また、メンバーが東北の人々と触れ合う中で、人とのつながりを大切にしたいという精神が育まれました。これからも当団体は学生を主体とした社会貢献活動を積極的に行っていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 I PRAY |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 地 域   | 広島県広島市           |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 代 表 者 | 理事長 榎並 毅         |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 支援金額  | 25 万円            |
| 2012 年度 I PRAY定期公演・東日本支援公演                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       |                  |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |                  |
| <p>子どもたちの平和創作劇 I PRAY は、1996 年の結成以来 16 年間、毎年 8 月 6 日を中心として定期的な公演を行いながら、平和と命の大切さを訴えてきました。また、公演活動や国際交流活動を通じて青少年の育成に貢献してきました。</p> <p>2012 年度は、特に 2011 年 3 月の東日本大震災の復興支援の活動として、歌と踊りを通して子どもたちの笑顔と元気を届ける活動を行いました。</p> <p>◆実施時期<br/>2012 年 8 月 18 日(土) ～ 22 日(水)<br/>宮城県仙台市、石巻市、山元町</p> <p>◆参加人数<br/>引率・指導者: 5 人<br/>青少年: 15 人<br/>保護者: 4 人<br/>途中参加: 役員 2 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員: 26 名</p> |       |                  |



74 名の小学生と 10 人の先生が亡くなった大川小学校。慰霊碑の前で歌を歌うが、悲しみで声が詰まってしまった。



現地での練習風景  
被災地を見学し、復興に取り組む方の姿を見て全力で踊ろうと夜も現地で練習に励むメンバー



交流風景。被災地の皆さんの前で精いっぱい笑顔で歌って踊る I PRAY のメンバー



現地でご協力いただいた、仙台 YMCA のスタッフや町役場や公民館の職員のみなさんそして I PRAY のメンバーたち

#### ◆実施に伴う効果

- ・今回の目的としては災害復興支援という目的があったが、もう一つの大きな目的として今回の公演を通じて、津波によって大きな被害と犠牲を出した被災地の状況を肌で感じ、また、人との触れ合いを通して改めて命の大切さということを見つめ直す機会を子どもたちと共に持つことであった。感受性の強い子どもたちは、自然の猛威を実感するとともに多くの亡くなった人、残された人の気持ちを共有することができた。また、全力で復興に努める人々の姿に励ましと勇気を貰い一人ひとりが大きく成長することができた。そのことは、現地の公演行っただけでなく大きなモチベーションとなり、その後の活動の中でも生きている。
- ・子どもたちの心の成長と強い思いは、現地の公演でも力強い演技となり見る人を引き込んでゆきました。子どもたちの笑顔と一緒に笑い楽しみ、真剣な演技には沈黙され、私たちの最大のメッセージである「私たちは、立ち上がった。」という廃墟から立ち上がるシーンでは、感激され涙されていました。楽しむときは心から楽しみ、感激するときは共に感激する、見るものと演じるものが一体となれた充実した公演でした。帰えられるときには、「とても楽しかった。」「来てくれてありがとう。」など多くの感謝の言葉をいただきました。
- ・今回の公演では、地元でボランティア活動をしている仙台 YMCA の支援のもとに実施することができた。地元の教育委員会や公民館の協力、ケーブルラジオ局への出演や避難所のみなさんによるビラ配りなど、多くの地元のみなさんのご協力によって実現し、みんなで作り上げた公演でした。支援する者の思いと地元の方の思いやニーズを繋ぐ存在との連携の重要性を強く感じました。

#### ◆苦労した点

- ・私たちの活動が、小中学生及び高校生を中心とした活動のため、学校行事や受験による事情により日程によって参加者が集まり難い状況があった。また、小学生低学年の場合、今回のように遠い場所へのバスによる移動など、保護者によっては子どもへの負担や健康を考えられ辞退されることがあった。
- ・県外や海外の公演では、現地のしっかりとした受入れ団体がないと場所の確保や広報や人集めが十分にできないところがある。今回は、現地の仙台YMCAのボランティアセンターの協力により公演場所、宿泊先もさほどの問題なく確保することができた。また、現地のケーブルラジオ局や社協の方と避難所のみなさんのご協力でも広報も順調に行えた。ただ、予定していた南三陸町での公演は、現地の他の行事との兼ね合いで断念することとなった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・全般的には、出演者の進学や休団による人数の減少がある。地元の小中高등학교との連携を強め出演者の確保をしていかなければならない。
- ・今後計画的に県外や海外での公演を行っていきたいが、そのためには、多大な費用が掛かるが、出演者の個人への負担を軽減するためにも積極的に寄付や助成金をお願いしてゆく必要がある。
- ・内容のグレードを常に向上させてゆく努力をしているが、演技や歌唱力の向上、映像とのコラボレーション等の取り組みなどを進め、また、何よりも子どもたちの平和や命の大切さに対する意識を高め国際的な視野を広げモチベーションを上げてゆく必要がある。そのための、平和学習や国際交流や支援活動など多くの体験の機会を提供してゆくことが必要だ。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

- ・今回の東日本大震災復興支援公演では、効果の所でも書きましたが、現地の視察や地元の方との交流を通して命の大切さ、被災された方や亡くなった方や遺族のみなさんの思いと復興とそれに携わる方の思いを体感し、私たちが活動する意味を再確認し、活動をこれからも続けてゆく力をいただきました。その中で、子どもたちの心も演技も大きく成長しました。また、4泊5日という異年齢の子どもたちによる集団生活を通して、出演者の中でのチームワークやリーダーシップもしっかりと身に付けることができました。このような機会を与えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 生物多様性研究所あーすわーむ |
| 三次市茂田地区における住民と小学生の協働によるツキノワグマ出没対策活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 地 域   | 広島県三次市                   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 代 表 者 | 正会員 藤井 猛                 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 支援金額  | 25 万円                    |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |                          |
| <p>集落の柿を狙ってクマが多数出没する広島県三次市茂田地区において、地元の自治振興区と小学校が中心となり、NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむや県などの行政機関、鳥獣保護員などが支援して、クマに関する学習会、クマの出没抑制対策や柿の実の利用促進、地域おこしなどに取り組む活動を支援する。</p> <p>○活動内容</p> <p>①クマに関する基礎知識学習会</p> <p>②出没対策現地学習会</p> <p>③児童による茂田地区でのクマ出没対策の支援</p> <p>◆実施時期</p> <p>2012 年 4 月～2013 年 3 月(主に 8～12 月)</p> <p>三次市君田町茂田地区及び三次市立君田小学校</p> <p>◆参加人数</p> <p>君田小学校における学習会:小学生 7 名</p> <p>茂田地区における学習会:小学生 17 名、住民等 25 名</p> <p>現地学習会(電気柵設置等)2 回:住民等のべ 45 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:94 名</p> |       |                          |



君田小での学習会  
クマとうまく共存することを、専門家から学ぶ



住民と小学生の柿もぎ  
「集落の柿を狙ってクマが多数出没するんだ」



「収穫した柿でジャムを作ろう！」  
住民と小学生の柿ジャムづくり



電気柵の設置状況を見学



◆実施に伴う効果

茂田地区住民が、クマに対する知識の向上や対策の継続に対する意欲をさらに高めたと、自治振興区長からは聞いています。来年度以降も継続して対策を行いたいとのことで、引き続きの支援を要請されました。君田小学校の学習会の時にはマスコミの取材もあったことから、茂田地区の活動が広く知られたことによりさらなる活性化にもつながったものと感じています。

また、君田小学校の児童については、地元のクマの状況や住民の活動状況等を知る機会を与えることが出来ました。

◆苦労した点

特に苦労したということはありませんが、強いて言えば地元と君田小学校との日程や内容の調整にやや時間を要した点です。しかし、県北部農林水産事務所にだいたい調整していただいたので、助かりました。

予算的には、当初予定していた備品等は既存のものを活用する等して、経費節減しました。

◆今後の課題・発展の方向性

茂田地区からは、来年度以降も引き続きクマ対策や学習会等の活動を継続する予定であり、引き続き支援を要請されています。住民や専門家と相談しながら、さらに効果的なクマの被害対策を実施したいと考えています。また対策だけではなく、柿を使った特産品の販売拡大など、地域の活性化にもつなげていけるように、関係団体と連携した活動も行っていく予定です。

併せて、君田小学校の学習会、特に茂田地区における現地学習会については、児童が地域の実情を知る貴重な機会であること、地域と小学校の連携した活動であること、などから、小学校側、茂田地区側双方とも継続的な活動を希望されていますので、引き続き県や市と連携しながらお手伝いしていきたいと考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

地域住民と小学校との連携、地域住民の支援、小学生への普及啓発、等といった活動を継続的に実施する機会を与えていただきましてありがとうございました。このような活動は、モデル的なものと位置づけておりますので、ぜひ他の地域にも広がっていただきたいと思います。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 地域福祉活動支援協会 人間大好き |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 地 域   | 広島県東広島市                    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 代 表 者 | 理事長 渡邊 壽江                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 支援金額  | 40 万円                      |
| <b>学習機会をすべての子ども達に与えたい</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |                            |
| <b>活動概要</b> <p>両親の収入により学習意欲がありながら教育格差の生じている子ども達、学校に行くのが辛い子どもたちを対象に、広島大学や近隣の方の支援を得て、無料学習塾を運営しているが、全くのボランティアで学生さんなど自己負担までかけて、継続しているのが現状である。長く継続し、教育資料なども充実して発展していきたいと考えます。心に問題を多少なりとも抱えた子どもたちが多いので、高齢者や大学生との交流活動も取り入れながら、地域で役立ち感を感じる経験を提供できるようにしていきます。</p> <p>◆実施時期<br/>平成 24 年 5 月 29 日～平成 25 年 3 月 4 日<br/>高齢者生き生きグループリビング明日への風</p> <p>◆参加人数<br/>中高生延べ 377 名 94 回<br/>広島大学生延べ 99 名<br/>地区のボランティア 20 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:496 名</p> |       |                            |



子ども無料学習塾 風景



みんなで机を寄せ合って



高校・大学・専門学校の受験生は  
全員合格しました



広島大学学生さんたちによる指導のお陰です

◆実施に伴う効果

無料学習塾に来ている子ども達全員が受験生だったが、各々が高校、専門学校、大学に合格し、塾を今回卒業することになった。

子ども達の勉強ばかりではなく、生活面や友人のこと、様々な悩みを聞いてもらえる居場所となった。

モデルケースとなり、ご近所の高齢者、障がい者施設でも有料と無料の学習塾が始まった。

親御さんや本人達より感謝の言葉をもらった。わざわざご挨拶に来られた方もいらした。

◆苦勞した点

いろいろな性格、考え方の子も達がいって、先生の指導力不足もあって、先生のお金がなくなったとか、休みが続いたこともあった。

学生さんのスケジュールがあわず、クリスマス会などのイベントがごくごく小パーティーで、終わってしまった。

先生の中には就活をしている人もいて、なかなか思うようにいかなかった。

◆今後の課題・発展の方向性

大学生さんが就活や卒業で継続が難しくなる時期が必ず来る。いつも学生さんが主流だと、その後の継続性が課題である。

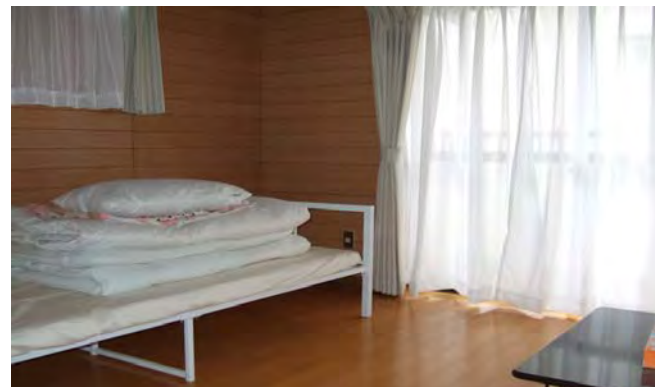
せっかく発展、展開しても途切れてしまうかもしれない不安が、いつもつきまとっているが、断続的であっても継続していく必要があると思う。

◆活動を終えての感想・意見等

これは絶対に求められる支援です。ただそれを支えるシステムを確立するのがとても難しいと思います。大学生にお願いすれば卒業していなくなってしまうなかなか講師を捜すのが難しいです。

講師の交通費や最低限の給与を確保していかないと続けていけないと思います。

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |       |                      |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------|
| 活 動 名       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 ピピオ子どもセンター |
| 子どもシェルターの運営 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 地 域   | 広島県広島市               |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 代 表 者 | 理事長 鶴野 一郎            |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 支援金額  | 40 万円                |
| 活動概要        | <p>保護者等から虐待等を受けた子どもたちを受け入れるための子どものシェルターを運営し、居場所のない子どもたちに避難する場所を提供する。</p> <p>シェルターでは、子どもたちに安心して食事がとれて、ゆっくり眠ることができる場を提供し、必要に応じて関係機関等とも連携し、子どもたちが次に進む方向を自ら見つけられる力を取り戻せるように、支援と見守りを行う。</p> <p>◆実施時期<br/>2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日</p> <p>◆参加人数<br/>平成 24 年度内の入居者 7 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:7 名</p> |       |                      |



ピピオの家



「子どもの日記念イベント」の劇



JaSPCAN(日本子ども虐待防止学会)  
高知りょうま大会参加



#### ◆実施に伴う効果

平成 23 年 4 月に「ピピオの家」を開所してから平成 25 年 3 月まで、延べ 20 名の子どもがピピオの家を利用した。入居者が途切れることはほとんどなく、定員のため、子どもの受入れを断念せざるを得ないこともあり、子どものシェルターのニーズの高さ、高齢児の居場所づくりのさらなる体制強化の必要性を痛感している。

平成 24 年度内の入居者は 7 名で、それぞれシェルターでの安心できる環境の中で生活をおくることができた。また、入居期間中に、退去後の一人暮らしに向けてアルバイトを経験したり、継続しながら退去できたりしたケースがあった。

#### ◆苦勞した点

家庭環境が改善できて家庭に帰れる子どもは少なく、家庭に帰ることができない子どもたちについては就労先を探すなどしている。しかし、その数は限られており、また、仕事への定着がむずかしい子どもも少なくない状況にある。子どもたちの自立を支援していくためのさらなる体制の強化やノウハウの蓄積が必要である。

入居相談があっても、定員のため、入居を断ることが何度かあった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

ピピオの家に入居した子どもたちの自立を支援するため、「スタートラインプロジェクト」を実施する（貴財団との連携）。

- ①被虐待児等の成長を支援するプログラム（被害回復、生活習慣の改善、自己肯定感の涵養、資格取得）
- ②スタッフの能力開発を支援するプログラム（講座・セミナー・研究会等の開催、ケース会議の充実、他機関の視察・他機関のスタッフとの交流）
- ③その他（広報活動の充実）

平成 25 年度も、平成 23 年度・24 年度に引き続き、ボランティアスタッフの募集・養成講座を開催し、ボランティアやシェルターなどに関心のある一般の方に参加を呼びかけていく予定である。

引き続き、男子用の自立援助ホームの設立を目指す。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

子どもシェルターのニーズの高さ、自立支援のための取組みをより充実させていくことの重要性を痛感している。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |      |                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------|
| 活動名<br><br>幼児～小中学生とのふれあいを大切に！                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 団体名  | 府中町子ども応援隊            |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 地域   | 広島県安芸郡               |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 代表者  | 府中町ボランティア協議会会長 篠永 廣也 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 支援金額 | 15 万円                |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |      |                      |
| <p>府中町子ども応援隊は、親子のふれあいを深め、明るく元気な子どもの成長を楽しみに活動しております。</p> <p>①府中町子ども応援隊のイベント</p> <p>イ. 府中町ふれあいん祭→「作って遊んでふれあいんさい！」</p> <p>ロ. 集まれ！リトルアーティスト☆「えのぐをけずってモダンアートに挑戦！」</p> <p>☆「オリジナルのさかなをつくろう！」</p> <p>ハ. 科学絵本「ひかりと色と水であそぼう」</p> <p>ニ. ヨガ体操&amp;クリスマス会で楽しく・元気に</p> <p>②各グループの活動は、毎月1回～4回の定例会で子ども達の成長を支援。</p> <p>◆実施時期<br/>2012年4月1日～2013年3月31日<br/>府中町ふれあい福祉センター・老人福祉センター福寿館（隣接）<br/>府中南公民館・府中南交流センター</p> <p>◆参加人数</p> <p>1.グループ単位の活動<br/>参加人員 1,841名（ボランティア 1,292名 参加者 549名）</p> <p>2.子ども応援隊イベント<br/>参加人員 425名（ボランティア 68名 参加者 357名）</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:2,266名</p> |      |                      |



ふれあいん祭の子ども遊び会場



府中小学校コーラス・参加 60 名



ひかりと色・自作品で実験



集まれ！リトルアーティスト作品の展示  
（段ボールに絵・さかなが泳ぐ）

#### ◆実施に伴う効果

- ・マツダ財団支援を受け、各グループの活動に活力が出てきました。
- ・今回の行事で、府中南公民館に会場の関係で共催を依頼した行事は好評でした。作品を公民館ロビーに 1 か月余り展示しました。また共有したイベントのため、参加者人数などをお願いすることが出来、分担した作業でしたが、参加した子ども達には大変喜ばれ、地域の人々からも感謝されました。 私達はボランティアの活動ですが、地域の活動に他団体の協力が得られる行事を今後は考えます。

#### ◆苦勞した点

- ・今年は、各グループからの積極的な立案を全体のイベントに採り上げました。関係グループ間の打合せは順調でしたが、子ども応援隊全体の連携が不十分だった。
- ・手作り材料でのイベントは、時間を要し大変でしたがメンバーの人たちは数週間かけ材料を作りました。当日、子ども達の嬉しそうな笑顔に接し苦勞したことが喜びになったようです。
- ・各グループ単位の行事では、外部へのPR不足や他のイベントと重なり参加者確保に苦勞していました。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・今後の課題として、幼稚園・学校関係者と子ども応援隊との交流会等で、子どもの成長について、ボランティアとして応援出来る事柄など、お互いの考えについて話し合う機会を作りたいです。(青少年の育成の活動内容が共有され、今後の活動の参考になります)
- ・私たちは、ボランティア活動です、いろいろな経験のある人々に、地域力向上のため応援の手助けをお願い出来ればと考えています。(適材適所の人材が集まるグループを作る等)

#### ◆活動を終えての感想・意見等

- ・府中町子ども応援隊に 2 年間ご支援をいただき有難うございました。各グループのメンバーが、今まで以上に地域社会に少しでも貢献できる活動を考えます。
- ・マツダ財団の応援により、今までの殻を破り自分達がより多くの人々にも接し地域のコミュニティづくり活動を強化します。
- ・地域活動に役立つ企画立案を考えますので、今後も宜しくお願い致します。府中町子ども応援隊にとってはこの 2 年間、楽しいボランティア活動が出来ました。心よりお礼申し上げます。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       |                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 熱帯森林保護団体ひろしま |
| 行動人となれ！「-ぼくらの未来はどうなる-」地球環境から知るこれから…                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 地 域   | 広島県広島市                 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 代 表 者 | 代表 松岡 敏子               |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 支援金額  | 20 万円                  |
| <b>活動概要</b><br><p>アマゾンの熱帯森林保護活動を通じて、環境教育として地域や身近な生活を見直し、次世代のリーダーとなる若者を育てる事業。3つの柱を目標とした。</p> <p>①さまざまな分野から有識者の講師を招き地球環境を学ぶ機会を設ける。</p> <p>②ワークショップを通じ環境問題を身近なものとし、参加者と交流することで、“未来のために今 私たちができること”について世代を超えてコミュニケーションをする。</p> <p>③実践や行動を通じて、未来に希望を持てることのできる健やかな人間像を育てる。</p> <p>◆実施時期</p> <p>第1回学習会 6月14日 広島市留学生会館<br/> 第2回学習会 7月14日 広島市市民交流プラザ<br/> 第3回学習会 三次市三和町 共生庵<br/> 強化合宿 10月6日～8日 広島市三滝少年自然の家<br/> 第4回学習会 2月9日 広島市留学生会館</p> <p>◆参加人数</p> <p>第1回 13人<br/> 第2回 15人<br/> 第3回 19人<br/> 第4回 28人<br/> 強化合宿 23人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:98名</p> |       |                        |



活動へ向けてのスタッフミーティング



三次共生庵での集合写真



白石絢子アマゾン現地報告会



合宿での火おこし体験



#### ◆実施に伴う効果

4回の継続学習会は、新たな若者の参加者が回を追うごとに増えた。  
スタッフの若者にとってもファシリテーター役など主体的に関わるいい機会となった。  
アマゾン現地報告として、毎年アマゾンに赴く本部代表南研子・事務局長白石絢子の講演は、深刻になりつつあるアマゾンの現状と私たちの生活とは対極にある先住民の暮らしぶりを若者に伝えるよい機会となった。  
2泊3日の強化合宿は、寝食を共にするという点でのスタッフ・参加者の交流には非常に役立った。  
座学を最低限とし、実際に体を動かすワークショップを中心に、盛りだくさんのプログラムは参加者から「楽しかった」「初めてアマゾンの先住民のことを知った。もっとアマゾンのこと知りたい」「自分の想いを大事にして、素直に行動していきたい」など好評だった。

#### ◆苦勞した点

広報では苦勞した。メール・HP・Facebook・チラシ配布と少ないスタッフで頑張った。  
2泊3日の合宿では、大学生はアルバイトや部活で忙しく、連休に予定を組んだのでなかなかスケジュールが合わず参加したくても参加できない若者が多数いた。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

1年を通じての年間計画を早めに立てて、スタッフ会議を重ね日程調整をして実行するようにしたい。  
広報では、ホームページを活用しメールリングリストを充実させることと、他団体との繋がりを強化して連携しながら、青少年健全育成事業を図っていきたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

本年度助成をいただいたことで、今まで漠然と思い実施してきた若者とのコラボ企画を青少年健全育成事業として年間を通じて開くことができたことを感謝いたします。行動人となることは何も大上段に構えることではなく、私たちのようなNPO団体のイベントに参加することも第一歩である。  
日本から一番遠いアマゾンという森を守る活動は見えにくい部分もあるが「楽しく・わかりやすく」をモットーに次世代へ繋げていける活動を今後もしていきたい。  
この事業によりスタッフとしてこれからも関わりたいと申し出てくれた数人の若者たちと共に、次年度もこの事業は継続していきたいと考えています。

|                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |       |                        |
|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------------|
| 活 動 名                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 里山環境サポートセンター |
| 安芸高田市向原町長田地区における通学路周辺の竹林の環境整備および放置された資源の活用 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 地 域   | 広島県広島市                 |
|                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 代 表 者 | 代表理事 吉山 朋之             |
|                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 支援金額  | 25 万円                  |
| 活動概要                                       | <p>竹林が長期にわたり放置され密生した竹ヤブとなり、通学路が昼間でも薄暗く見通しも悪くなり、平成 22 年秋女子児童暴行未遂事件が発生しました。通学路としても周辺住民の生活空間としても環境が悪化し、早急の環境改善が必要であると思われました。</p> <p>竹ヤブの中には枯竹・倒伏竹また伐採後放置された竹で足を踏み入れる事さえ困難な状況になっており、今回の事業では、道路法面周辺に密生する枯竹・倒伏竹および老齢竹を中心に、約 5m幅で約 200mにわたり伐採・整理伐を実施しました。伐採した竹は粉碎機によりチップ化し、搬出し資源として活用しました。竹チップは牧場で堆肥化し、チップ化できない竹は炭化し環境保全のための資材として活用し、表土・水質などの保全を図ります。また一部の竹チップは堆積し、カブトムシの繁殖を図りました。</p> <p>竹林の環境保全から地域さらには地球の環境保全へと繋がる活動になるものと思います。また、子ども会・自治会に整備活動に参加して貰う事により、子どもだけでなく大人の方にも環境保全の必要性を体験して貰い、不法投棄防止をはじめとして環境への配慮の意識付けへとつなげたいと思います</p> <p>◆実施時期<br/>平成 24 年 5 月 16 日～6 月 20 日<br/>安芸高田市向原町長田</p> <p>◆参加人数<br/>竹林整備 6 名(延べ 24 名)<br/>長田地区子ども会 7 名      自治会・父兄 4 名<br/>マツダ財団 1 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:36 名</p> |       |                        |



伐採された竹を皆で協力して竹ヤブから搬出。落葉で足元が滑るので気をつけながらの作業でした



作業後、見通しが良くなり明るくなりました



カブトムシのベッドづくり。来夏には、たくさんのカブトムシが出てきますように…



竹林整備をしながら、かつての里山の原風景について話を聞きました

#### ◆実施に伴う効果

- ・当初の目的の通学路の見通しは、とりあえず改善されました。地域の住民の皆さんからも環境が明るくなったと感謝の言葉をいただきました。
- ・安芸高田市の環境グループ(環境もやい☆安芸高田)の勉強会で事例報告を行ない、環境問題としての竹林整備の取り組みを発表させて貰いました。自治会・行政・NPOとの協働事業としての里山・竹林の環境整備への足がかりとなることを期待しています。

#### ◆苦労した点

- ・今回の作業区域が、急峻な斜面で落葉もたくさん堆積し、足元が悪く滑って事故か起こらない様に特に注意しながらの作業になりました。また道路の要壁の下の作業で竹の搬出作業もかなりの重労働になりました。協力いただいた神乃倉山愛山会の皆さんに感謝します。
- ・作業を手伝ってもらった子ども会・地域の皆さんには、搬出・ゴミ拾い中心の作業をお願いしたため、内容にあまり興味を引き付けるものがなかったと感じました。来春のカブトムシの幼虫が発生する時期に、またこの様な機会が設定できれば、また関心を持って貰えるものと思います。
- ・空き缶をはじめ家庭ゴミ・粗大ゴミなどの大量の廃棄物が散乱し、ゴミの回収・搬出も竹林の整備以外に手間と時間を必要としたが、まだまだ大量のゴミが放置されています。ゴミの回収だけでなく処分にも地域の自治会に協力して貰いました。
- ・以前に伐採・放棄された竹が大量に堆積され、今回出来る範囲で搬出・処理を行ないましたが、大半の竹が未処理のまま竹林内に放置されています。この活動を足がかりに地域の住民の皆さんの協力で次の作業が実施出来ればと思います。
- ・問題発生から事業着手まで約1年半を経過してしまい、役員交代などで自治会の問題意識が低下し事業の実施に意欲が失われ、作業への協力が得難くなってしまいました。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・竹林の整備は伐採・棚積みと言う従来の作業方法では環境の保全にはならないと思います。竹ヤブの中に伐採した竹を放置したままでは、ゴミの廃棄を助長し、さらに竹ヤブ化を進めるだけであると思います。資源として利用を図る事により活動資金を獲得し、次の活動へとつながる様に展開していきたいと考えています。
- ・地元自治会、所有者だけでなく行政も含めた事業の展開を考えて行かなければ、竹林の整備は前へ進まないと思います。今回の整備では行政に協力を依頼しましたが、全く支援も協力も得られませんでした。今回の作業の実績で、行政にも竹林の整備に少しは関心を持って貰い次の整備へとつなげて行かなければと思います。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

- ・竹林の整備は今回だけで終わりではありません。今回の活動をまた次の整備に繋げ、来年へさらにまた来年へと継続していく必要があります。その実施方法の提案になればと思いながらの活動を続けています。竹林をはじめとする里山はかけがえのない資源です。資源として活用する事によって里山の保全に繋がりたいと思います。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 自然体験活動推進センター |
| 廿日市市長期宿泊自然体験活動推進プロジェクト                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 地 域   | 広島県広島市                 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 代 表 者 | 理事長 林 健児郎              |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 支援金額  | 25 万円                  |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |                        |
| <p>①廿日市市長期宿泊自然体験活動推進ミーティング<br/>小学校で長期宿泊自然体験活動を実施するために必要な議論、協働、体験学習とは？について、先進地である京都市と体験活動の専門家を招いて講演会を開催した。</p> <p>②長期宿泊自然体験活動モデル事業<br/>小学生を対象に長期宿泊自然体験活動を企画実施した。企画のねらいと活動の実際、モデル化に向けて参加者や指導者の感想、施設運営上の問題点などを明らかにした。</p> <p>③「長期宿泊自然体験活動カリキュラム開発」<br/>施設職員、自然体験活動指導者で、カリキュラムに連動した自然体験活動の開発に向けて議論を行った。</p> <p>④「長期宿泊自然体験活動の手引き」作成 ①②③をふまえて手引きを作成した。</p> <p>◆実施時期<br/>①2012 年 6 月 24 日(日) 県立もみのき森林公園<br/>②2012 年 8 月 17 日(金)～21 日(火) 県立もみのき森林公園<br/>③2012 年 9 月下旬～ はつかいち自然体験型観光推進実行委員会事務局<br/>④2013 年 1 月中旬～ はつかいち自然体験型観光推進実行委員会事務局</p> <p>◆参加人数<br/>①23 名、②75 名(5 日間のべ)、③23 名(全 6 回のべ)、④12 名<br/>参加総人員:133 名</p> |       |                        |



先進地事例・協働・体験学習とは？について  
みんなで学びました



ミーティングを終えて、講師と参加者のみなさん



県立もみのき森林公園にて



魚のつかみ取りと調理も体験しました



#### ◆実施に伴う効果

- ①「廿日市市長期宿泊自然体験活動推進ミーティング」には、教育委員会、観光課等の行政職員、小学校教員、大学教員、自然体験施設職員、地域の自然体験活動指導者、キャンプ協会の指導者、県外の自然活動団体など、様々な所属や立場の方が参加した。2008 年ごろから文部科学省や農林水産省、国は長期の宿泊体験活動の奨励を行っているが、地方ではこうした動きに対する情報が乏しく、また、関連するミーティングや勉強会は関東や関西等の都心で行われることが多い状況であった。こうした中で、広島県で先進地の施設職員や行政職員、また全国的に著名な体験活動の講師を招へいすることができ、指導者、施設、行政それぞれに、実施に向けた大きな刺激を与えることができた。参加者間のネットワークができたことも、大きな効果である。
- ②「長期宿泊自然体験活動モデル事業 ときどきサマーキャンプ 4 泊 5 日 ワイルド&チャレンジ!」では、廿日市市吉和地域の自然を活かした特色ある自然体験活動を、地域の指導者、施設職員、施設、民間団体が協働で実施することできた。それぞれの持つ特徴や良さを生かしながら、当該地域での長期宿泊自然体験活動をどのように企画し実施していくのか、だれが音頭をとるのか等、実施するプロセスで相互に良い影響を与えた。また、地域の指導者や施設にとっても、今後の実施に向けた事例として大変感謝された。
- ③「長期宿泊自然体験活動カリキュラム開発」では、カリキュラム開発を現場(小学校)の教員と一緒に目指そうとしたが困難であった。しかし、②のモデル事業を実施したメンバーで、体験活動が学びとして学校で実施されるようにするためにはどのようにしたら良いか、地域や指導者、施設の立場から②のモデル事業実施の経験を通じて得た事をふまえながら議論することができた。それぞれの団体や施設での、自然体験活動の取り組みが活発になった。
- ④「長期宿泊自然体験活動の手引き」作成は、時間もかかり苦労したが、今後の実施に向けて、地域、施設、地域指導者、学校等に向けたマニュアル的なものが完成し、今後の同手引きが活用されることが期待される。

#### ◆苦労した点

支援額が計画の半分となったことで、予算面でのやりくりで苦労した。計画が年間に渡って①～④の 4 部で構成していたため、予算の使い方や活動の実施の仕方について、調整が必要となった。①では講師として 3 名をお呼びすることになり、多くの方にボランティアで運営をお手伝いいただいた。②では、独自の事業での実施ではなく、施設の事業に協力をお願いして実施させて頂いた。③④については支出をなるべく抑えるようにした。広報や PR は、近隣の小学校に DM を送ったり、教育委員会に依頼をしたなど行った。しかし、小学校の行事と重なったり、教員の休日の扱いなどの問題があるようで、学校関係者の参加を得るのに苦労した。また、指導者や施設関係者、大学などの教員の参加者もあったが、最終的により多くの人に参加いただけるよう、開催前日まで電話でお願いするなど大変であった。全般的に苦労した点が多かったように思います。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

今回のプロジェクトでは、地域の施設、指導者、関係団体等と連携ができた。しかし、同じように学校との関わりや関係をどのように作っていくかが課題である。教員は毎日の業務で多忙であり、また、教育委員会、学校、学年等の方針がある中で、一教員としての思いだけでは、長期宿泊自然体験活動や実施に向けた関係者、施設との連携は実施が難しい。このような現状が確認できたことは成果の一つではあるが、今後解決しなければならない課題である。子ども達にとって、自然の中で体験活動を実施することは重要である。一方で、学校教育の中だけで実施は困難であり、地域や施設、民間団体などの自然体験活動に関わる様々な人と結びつき、協働していくことが大切である。しかし、結びつけるのは容易ではない。誰かがつなぎ役となって、コーディネートしていくことが重要である。よって、今後は、当法人のような非営利の民間団体等がコーディネート役として、教育委員会や学校と施設、地域指導者、関連団体、とを結びつけて、長期宿泊自然体験活動を推進していくことが、発展のカギであり、どのようにコーディネートするかを探っていくことが、方向性であると言える。具体的には、今回実施した内容のように、先進地での事例紹介、協働していくことの重要性と具体的な協働の方法、協働の事例紹介を、教育委員会や学校などに対して継続して行いながら、モデル事業を参考にした事業計画の作成を一緒に行っていくことが有効ではないだろうか。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

プロジェクト実施にあたり、ご支援頂きました公益財団法人マツダ財団様に、改めてお礼申し上げます。市民活動は、活動の構想や実施に向けた思いがあっても、具体的な支援がないとなかなか実施できない場合が多いです。支援対象に選んでいただいたことで、大変力をいただきました。また、廿日市市、廿日市市教育委員会、はつかいち自然体験型観光推進実行委員会、県立もみのき森林公園、はつかいちキャンプ協会、よしわ自然体験活動指導者の会、その他ボランティアで運営を活動をお手伝いいただいたみなさま、京都や東京からご参加いただいた講師の皆様、その他関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。年間を通じて 4 つの活動を実施した中で、課題も見つかりました。うまくいかなかったこともあります。成果とともに反省点や課題を活かして、今後も活動の推進を実施していきます。今後も、みなさまと一緒に活動させていただきたく、またご協力をよろしくお願いいたします。プロジェクト主催者として、今後も継続して取り組んでいきます。ありがとうございました。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 あいあいねっと |
| 児童生徒へのフードバンク活動を通じた食育活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 地 域   | 広島県広島市            |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 代 表 者 | 理事長 原田 佳子         |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 支援金額  | 20 万円             |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |                   |
| <p>人口増加、バイオ燃料等で、世界の食料危機に拍車がかかる中、日本の食料自給率は主要国の中でも一番低く、食糧の確保を外国からの輸入に頼っています。その一方で、食品廃棄物は把握しきれないほど多く、日本人の食べ物を大切にするという意識の薄れが、朝食欠食による学力の低下、栄養バランスの乱れ、生活習慣病による医療費の増大など大きな問題の原因の一つとなっています。そこで、子ども達やその保護者に食べ物の大切さや「食」に対する感謝の気持ちを伝えることを目的に、フードバンクに実際に寄せられる食品やパネル、フードバンクを題材にした人形劇を用いて、フードバンクの紹介や日本の食料自給率、食糧廃棄物の現状等の食糧問題について解説、解決策をディスカッションし、自分たちにできることは何かを考え実行できるようなイベントを開催しました。</p> <p>◆実施時期<br/>平成 24 年 4 月から 11 月<br/>保育園や幼稚園の講堂や地域のイベント 合計 11 回。</p> <p>◆参加人数<br/>参加総人員:4,220 名</p> |       |                   |



フードバンク人形劇の動物さん達



デイケアセンターにて上演



こども園にて上演



エコまつり環ッハッハ in よしじまにて上演

#### ◆実施に伴う効果

- ・園児からは、「苦手なものも残さず食べる、残したらもったいないので食べられる量だけお皿に取る、みんなで分けて食べる、食べ物が無いと大変！！」など多くの意見が聞かれた。保育士からは、「以前行った園の保育士から園児に好評だったと伺い、大変楽しみにしていました。子たちにもわかりやすいストーリーや音響などの演出がされておりとても良かったです。これをきっかけに食べ物を大切にする気持ちを育てていきたいです。」と感想をいただきました。
- ・保育園で行った人形劇の動画を YouTube にて公開したことがきっかけで、広島県観光県民局環境政策課より、広島市が推進している「スクールエコ事業」へ登録されました。  
動画 URL [http://www.youtube.com/watch?v=m-0h\\_24fHMI](http://www.youtube.com/watch?v=m-0h_24fHMI)
- ・可部地域の福祉団体が集まるイベントにてフードバンク人形劇を上演して欲しいと依頼があり、子どもスペースにて上演させていただきました。

#### ◆苦勞した点

- ・小さな子ども達にもフードバンク活動がわかるように言葉や内容に気を付けてストーリーを構成することに時間がかかりました。デイケアセンターに通う高齢者の皆様に意見をいただきながら、動物たちの自己紹介の前振りを付けたり、言葉の表現を直しました。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・対象者が園児ということもあり、対話という形での振り返りとなりました。対象年齢を上げることで、問題の内容を掘り下げ、アンケート調査などから効果を把握できるような取り組みを次回から検討していきたいと考えます。
- ・人形劇の演者が当法人のボランティアスタッフであったため、通常の活動の後での練習や本番ということもあり、負担が大きく、当初の計画では1ヶ月に1度の年12回を計画していたが回数を減らしてしまいました。練習時間や上演の日程など、調整をしていきたいと思います。
- ・園児の人数が予想以上に多かったため、セットがあまり大きくなかったことと、声が聞き取りにくかったという反省点があり、今後、ピンマイクなどの購入も検討したいと思います。
- ・今後、地域のイベントや当法人が主催するイベントにおいて、対象者を考慮したより効果的な媒体を作成し、食料問題を考える場を設けていきたいと考えます。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

フードバンク活動を通じた食育活動に御支援くださいました、公益財団法人 マツダ財団様、各こども園の皆様には厚く御礼申し上げます。未来を担う子供たちに、普段忘れがちな、食べることの大切さを訴えることができたのではと感じています。我が国の食糧自給率は40%を下回り、多くの食品を外国からの輸入に頼るその一方で、大量の食品ロスが出ています。食品ロス問題には、食べ物を大切に食べるという国民一人一人の意識が必要不可欠です。まだ食べられる食品をゴミとして処分する前に、焼却処分や飼料や肥料への活用とは違う、食べ物を食べることでの環境保全と食べることへの感謝の念をより多くの人に伝える活動を展開していきたいと思います。ありがとうございました。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------|
| 活動名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 団体名  | ひろせ冒険遊び場運営委員会 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 地域   | 広島県福山市        |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 代表者  | 会長 橘高 昇吾      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 支援金額 | 20 万円         |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |      |               |
| <p>「危険」「汚い」などの理由で親たちから制限されているような、工作道具や材料・火・水などを思う存分使える「遊び場」を豊かな自然環境の中に用意する。この「遊び場」では大人は見守るだけで、口出し・手出しは極力行わない。こうした大人の干渉をできるだけ排除し子どもたちの好奇心・冒険心のままに遊べる環境を作り出すことで、想像力や自主性・協調性を育めるような活動を行っています。</p> <p>◆実施時期<br/>2012 年 4 月～2013 年 3 月まで合計 12 回開催<br/>広瀬ふれあいの丘 広島県福山市加茂町北山</p> <p>◆参加人数<br/>大人・大学生 203 名<br/>小・中・幼児 253 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:455 名<br/>(この他にも無記名の参加者あり)</p> |      |               |



ひたすら水遊びをする黄色い子・地面で調理！



左・大人が登ると子供も木登り  
右・3 段ベッドだそうです



ドラム缶風呂に入る子に水をかけて喜ぶ子たち



まあスイッチが入れば  
あとはほっといてもいろんな遊びをしますね



#### ◆実施に伴う効果

・福山市内のもう1つの遊び場と岡山県の遊び場との交流協力活動が盛んになった。  
(例) 学生ボランティア、他の遊び場のスタッフが手伝い(遊び?)に来てくれた。

・過疎の当地域では子どもが寄って遊ぶことが難かしいが、その機会を作ることができた。

・公園と違い知らない家族同士でも気軽に声をかけ合ったり、遊んだりできる不思議な雰囲気が出た。

・市街地への出張開催の声がかかった(進行中)

助成によって変わった事

・遊び場の小屋裏の狭まっていた空間が大きく広がった。  
・土が出てきたことにより泥あそびもやりやすくなった。  
・雨が降ったときにも入れる場所がふえた。  
・今まで到底できないと思っていた大がかりな工事をする事になり、色々な人に話をする中で、全然知らなかった人たちが声をかけてくれたり、協力してくださったため、予定に無かった工事まですることができた。

無料でできたもの

・重機レンタル代 (地域の人が無償で貸して下さった)  
・重機移動代 (地域の人がツテを使って無料で専門の業者さんがして下さった。  
・重機操縦者人件費(私有地の場合免許がいらないことを聞き、プロの人から手ほどきを受けて自分たちで行った。

浮いたお金で以前から懸案だった小屋の中に置いてある木材を子供たちの目に触れる場所に移すため、屋根の延長工事を子供たちに見えるところで自分たちの手作業で行いました。

これからは子供たちも建築あそびができるように廃材をたくさん集めて来る予定です。

#### ◆苦労した点

11月に冒険遊び場全国一斉開催のキャンペーンがありました。  
その際、福山市庁舎にポスターを貼らせてもらおうと頼みに行ったところ、  
5〜6課をたらい回しの果てに  
「市の後援がないと掲示できません。」  
と言われ断られてしまいました。

同じポスターでも庁舎の1回ロビーで写真展示させてもらった遊び場もあったので、まだまだこれからの広報活動が必要と感じました。

ただし、次回は貼らせてもらいます。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

現在は都市部から離れたところでの開催のため利用している年齢が親と同行する子ども(赤ちゃん〜小学校4年生ぐらい)だけなのでもっと幅の広い年齢の子どもたちが遊べるように街の空き地や公園での出張開催を計画中です。(空き地は3/28申し出がありました!)

#### ◆活動を終えての感想・意見等

助成をいただいたことで活動の幅が広がりました。  
幅が広がったことで多くの出会いがありました。  
出会った人たちから思ってもみなかったような様々な協力がもらえ、  
「やってよかった。」  
「これからもがんばろう。」  
そういう気持ちをみんなで共有することができました。

本当にありがとうございました。m(\_\_)m

|                                                                                                                                                                                 |      |            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------|
| 活動名                                                                                                                                                                             | 団体名  | 子供友好会      |
| 武術・読書を通じて、日中両国の文化を学ぼう                                                                                                                                                           | 地域   | 広島県広島市     |
|                                                                                                                                                                                 | 代表者  | 代表 岩井 艶子   |
|                                                                                                                                                                                 | 支援金額 | 25 万円      |
| 活動概要                                                                                                                                                                            |      |            |
| <p>日中婚姻関係にある家庭、中国人留学生家庭、中国帰国者家庭の子供たちを対象とする活動です。多国の文化を学び、人に対する思いやりと互いに尊重し合うことの大事さを、日本或いは中国文化芸術を習うことと社会活動や自然環境を守る活動を通じて学び、心身ともに健康的に成長していくためです。</p>                                |      |            |
| <p>① 子供武術の指導(五歩拳・長拳初級)<br/> ② 手作りの指導(折鶴、和紙ちぎり絵、ビーズ手芸)<br/> ③ 中国語読書読み聞かせ<br/> ④ 平和の祈り:年に1回<br/> ⑤ 国際交流フェスティバル ペアセロベ 2012 舞台公演:年1回<br/> ⑥ 武術・読書・自然体験の成果を発表する会</p>                 |      |            |
| <p>◆実施時期<br/> ①・③子供武術・中国語の読み聞かせ 時期:毎週土・日曜日 場所:中央公民館<br/> ②手作り 時期:月2回 土・日曜日 場所:中央公民館<br/> ③平和の祈り・子供演武:7月7日 場所:平和公園<br/> ④国際交流フェスティバルペアセロベ 2012:10月28日<br/> ⑤成果発表会 2013年2月17日</p> |      |            |
| <p>◆参加人数<br/> 子供 20 名 保護者 20 名</p>                                                                                                                                              |      |            |
|                                                                                                                                                                                 |      | 参加総人員:40 名 |



平和の祈り・子供演武を催しました。平和公園にて



国際交流フェスティバルペアセロベにて



5 歩拳と長拳を覚え、舞台発表までできるようになりました



弱々しい子が明るくなって、自分の気持ちも言えるようになってきました

◆実施に伴う効果

- ・一年間をかけて、子供たちの成長が著しかったです。5 歩拳と長拳を覚え、舞台発表までできるようになりました。拳法を練習することによって、弱々しい子が明るくなって、自分の気持ちも言えるようになってきました。公演のために団結して、練習に取り組む姿には、とても感心しました。
- ・和紙ちぎり絵の会で子供たちがしっかりやり方を聞き、親たちの助けを借りながら、展示会に並べるほど素敵な作品を作られました。ビーズの会で、クリスマスリースを楽しくできました。折鶴はおじいちゃんおばあちゃんの協力を得て、無事に捧げることができました。
- ・色々な活動を行うことによって、おじいちゃんもおばあちゃん、両親とのふれ合いが増えることになり、中国語・武術以上の成果に達しました。

◆苦勞した点

1. 入会の子供が年中バラつきがあるから、教えるのに苦勞しました。
2. 中国語の勉強も上手な子供と全くできない子供がいますから、同じ時間帯で教えるのが一工夫しないと、どちらが詰まらなくなることになってしまいます。

◆今後の課題・発展の方向性

1. 学期制で、年中バラ入会を受け付けないことにする。
2. 初・中・高レベルクラスを分けて教えていきたい。
3. 保護者も指導者として、取り入れようと思います。

◆活動を終えての感想・意見等

援助金を有効に使わせていただきました。公益財団法人マツダの援助を受けることで皆さんがすごく真面目に活動を参加しました。今年の 3 月中学校 3 年生になる 3 人の子が子供友好会を卒業されました。4 月からまた 5 人の子供が入会する予定です。これからも応援お願いいたします。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |      |                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------|
| 活動名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 団体名  | 安地区まちづくりプランプロジェクト「おとなりさん」 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 地域   | 広島県広島市                    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 代表者  | 代表 和氣知美                   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 支援金額 | 15 万円                     |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |                           |
| <p>「おとなりさん」は、平日の放課後や休日の子どもたちの居場所づくりを主な目的とし、近隣の大学生が運営スタッフとして活動しています。現在は、広島市安公民館で大学生スタッフと子どもたちがトランプやカルタなどのゲームや折り紙、工作などをしたり、子どもたちに勉強を教えたりしています。また、子どもたちの体験活動の場を広げるために、大学生スタッフが設定したテーマをもとにスポーツ大会などのイベントを開催しています。おとなりさんでは、スタッフと子どもたちとの交流だけでなく、スタッフ同士、子ども同士の交流が行われているほか、安ふれあい祭りなどへも積極的に参加して、地域との交流も深めています。</p> <p>◆実施時期<br/>2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日<br/>広島市安公民館</p> <p>◆参加人数<br/>子どもと大学生スタッフの交流活動…1 日あたり 5～10 名<br/>母の日キャンペーン…35 名<br/>父の日キャンペーン…32 名<br/>10 周年記念イベント…88 名<br/>ハロウィンイベント…46 名<br/>公民館祭り…317 名(重複あり)<br/>スタッフ研修…44 名<br/>クリスマスイベント…38 名<br/>お正月キャンペーン…30 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:598(重複あり)</p> |      |                           |



10 周年記念イベント(スポーツ大会)  
イベント終了後全スタッフが集まっての記念撮影



公民館祭りにて。テーマは「絵本の世界」。スタッフ手作りのゲームを子どもたちに体験してもらいました



公民館祭りにて、お菓子の家のパズル。決められた時間内で完成させようと、子どもたちの顔は真剣！



スタッフ研修にて。2 日間を終えての記念撮影。スタッフ間の仲や子どもたちに対する思いも深まった



#### ◆実施に伴う効果

- ・イベントや活動を通して、子どもたちだけでなく、地域の方や他団体の方にも「おとなりさん」のことを知ってもらえた。このことにより、ボランティアやお手伝いをさせていただく機会が増え、地域との交流がより深まった。
- ・兄弟や友達を連れてきてくれる子どももいて、学校・年齢・性別を越えて触れ合うことで、学校や家庭とは違った居場所をつくることができた。
- ・「おとなりさん」を自分の居場所として何度も遊びに来てくれる子どもが増えた。
- ・イベントなどを通して「おとなりさん」の活動を知ってもらうことで、保護者の方にも理解してもらえるきっかけが作れた。

#### ◆苦労した点

- ・異年齢交流を取り入れてきたが、遊びを低年齢の子に合わせてしまうため、年上の子が遊びに満足できなかったり、退屈してしまったりすることもあった。
- ・活動中の子ども同士のトラブルへの対応の仕方に困った。特に、兄弟げんかではどの程度スタッフが入り込むべきか距離感が分からなかった。
- ・スタッフの人数が多いため意思疎通が難しく、共通理解に欠けたところもあった。
- ・同じ大学のスタッフが多いため補講日が重なることがあり、活動をキャンセルしなければならないこともあった。
- ・イベント当日に急遽人数が変わることがあり、計画が予定通りにいかないことがあった。
- ・お祭りなどの定員のないイベントでは、子どもの人数の想定が難しかった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・子どもと大学生スタッフの交流活動の見直しをして、スタッフ自身が遊びのスキルを上げることで、子どもたちの興味・関心を高め、遊びの充実を図る。
- ・活動やイベントの向上のため、話し合いの場を増やすだけでなく、一人ひとりが考える時間を持てるようにする。
- ・活動などで起こったトラブルや出来事は、関わった人たちだけでなく全体でトラブルについて把握し、トラブルの対応の仕方を考え次に活かせるようにする。
- ・様々な意見や考えを取り入れるため、他大学や他学科の人にも「おとなりさん」を知ってもらう機会を作る。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

頂いた支援金はスタッフ研修と棚の購入に使用させていただきました。スタッフ研修では、普段自分たちだけでは経験することのできないレクリエーションや野外炊飯を通して、知識を増やしたり、仲間との仲を深めたりすることができました。この貴重な体験を将来子どもと関わるなかで活かしていきたいと思います。また、棚を購入したことで制作物や活動で使用している物の保管がしやすくなり、子どもたちに提供する遊びが増えました。1年間の活動を通して、たくさんの子どもの喜ぶ姿や笑顔を見ることができました。これからも活動がますます発展していくことができるように頑張っていこうと思います。ありがとうございました。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 団 体 名 | かんきょう会議 浮城 |
| 「三原さんさんプロジェクト」手作り太陽光発電パネル＋外灯設置ワークショップ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 地 域   | 広島県三原市     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 代 表 者 | 代表 村上 純子   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 支援金額  | 30 万円      |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |            |
| <p>【目的】ESD(持続発展教育)の重要性、環境学習の必要性や原発事故によるエネルギー問題への関心の高まりにより、高校生対象に下記事業を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化の現状および係る対策、再生可能エネルギーについての知識・技術の習得</li> <li>・「作る」過程を体験することにより、社会の課題と自分自身の暮らしを結びつける</li> </ul> <p>【内容】</p> <p>【A】&lt;講義&gt;・地球温暖化とエネルギー<br/>・ソーラークッカー、太陽光パネルの使い方</p> <p>【B】&lt;実技&gt;太陽光パネルづくりと噴水への接続</p> <p>【C】&lt;実技&gt;太陽光パネルと LED 照明の接続</p> <p>【D】活動発表</p> <p>◆実施時期<br/>6 月 13 日(水)～3 月 23 日(土)<br/>広島県立三原高等学校</p> <p>◆参加人数<br/>生徒のべ 60 名 (+6/16 は、文化祭参加者、9/3 は、全校生徒約 570 名)<br/>先生のべ 9 名<br/>会員のべ 14 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:83 名</p> |       |            |



生徒による太陽光発電パネル設置台作成



太陽光発電パネルの制作



一般参加者が作成した太陽光発電パネルを  
市民と生徒でポールに取り付け、接続。



太陽光発電パネルと噴水を取り付け

#### ◆実施に伴う効果

- ・こちらで提案した事を受けて、学校独自に、文化祭での発表や吹奏楽部も参加しての手づくり太陽光パネル噴水の除幕式を企画するなど、この取り組みの内容の幅を広げていただいた。
- ・新聞に掲載されたことにより、学校へ問い合わせや視察があり、学校としても、参観日、公開研究事業研修等を利用し紹介して、広く啓発していただいている。
- ・来年度も、引き続き高校で「環境」をテーマとした取組を当会と一緒に進めていただけることとなり、「Ecoリーダー」を養成していく。

#### ◆苦勞した点

- ・学校行事、クラブ活動等との関連で参加人数が計画より少なくなってしまった
  - ・学校の日程を優先させた為、一般や会員の参加者も少なかった
  - ・ろ過装置を取り付けたり、設置内容を看板で表現する予定だったが、支出が多くなり、実現できなかった。
- 表示については、学校の方で、作成者の名前等を銅板にエッチングしてくださるとのこと。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・講座の継続の希望は多いが、経費がかかり、当会単独での開催は、むずかしい。  
市民や企業から、資金を公募していく方法などを検討していきたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

生徒へのアンケート結果から、さまざまな環境問題が自分達のライフスタイルと密接につながっていること、1人1人が行動することの大切さ、自然エネルギーの重要性など、座学と実践を体験することによって、より深く理解でき、節電の実践に対する意識も高まったことが確認された。

また、新聞、地元テレビに取り上げられたことにより、一般の方にも、広く知られることとなり、多くの方に啓発できている。

学校独自の開催で、生徒達が原発の是非について話し合う討論会も開かれ、日本の社会として重要な課題である「エネルギー」について、関心を引き起こすことにつながったのではないかと。生徒達が自分自身の言葉で考え、また関連する技術について学び・体験する、時宜にかなったテーマを提供できた。今後も、子ども・若者が社会的課題に関心を持ち、自ら挑んでいく機会をつくっていきたい。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 尾道空き家再生プロジェクト |
| 「尾道空き家再生！夏合宿」小学生のためのツリーハウス作り体験                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 地 域   | 広島県尾道市                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 代 表 者 | 代表理事 豊田 雅子              |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 支援金額  | 25 万円                   |
| 活動概要 <p>尾道は住民の高齢化や過疎化により、現在では駅から 2 キロ圏内の中心地に 500 軒近い空き家が存在すると推定されている。</p> <p>我々の団体は 20～30 代のメンバーが中心となって活動しているが、これからを担っていく 10 代やそれ以下の年代の参加が少ない状況である。この活動では地域の小学生を対象としたツリーハウス作りの合宿を実施した。合宿ではツリーハウス作りのほか、尾道の魅力や現状の問題点を理解してもらうためにまちあるきを行い、野外調理や蒔き風呂などのアウトドア体験もプログラムへ組み込んだ。合宿では景観に対する意識の向上や古いものを大切にする心の育成、ものづくりの楽しさを伝えた。</p> <p>◆実施時期<br/>時期:2012 年 7 月 24～26 日の 3 日間<br/>場所:尾道市旧市街地</p> <p>◆参加人数<br/>当日スタッフ・・・8 人<br/>参加者・・・20 人<br/>印刷物デザイン・・・2 人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:30 名</p> |       |                         |



ツリーハウスづくり



まちあるき



屋外調理



集合写真



#### ◆実施に伴う効果

過去に、事業の一部として若年層を対象としたイベントを実施したことはあったが、小学生をメインターゲットにした企画は今回が初めての試みである。参加申し込みもどの程度あるのか読めなかったため、受け付ける人数も無理のないよう少なめに設定していたが、実際は問い合わせも殺到し、キャンセル待ちも発生した。そのことから空き家再生活動へ対する若い世代からの注目度の高さがうかがえた。保護者からの推薦で参加した者もいたが、参加者の大半は能動的に参加を希望してきた者であった。そのおかげで合宿はやる気と好奇心で充ち、斜面地での生活の不便さや、不便さの中にこそある生活の面白さを積極的に学ぶことができた。

また「空き家再生」ということに参加者だけでなく、保護者からも以前に増した関心を持たれた。斜面地や商店街にある元空き家をリノベーションして作られた店や場所を紹介でき、空き家を再生する多様な動きを知ってもらうきっかけになった。その結果、合宿終了後にいくつかの場所へ再訪している様子が見られ、新たな人の流れが生まれた。自分たちの手で作った空間は愛着も湧き、保護者や兄妹、友人へも口コミするようになる。夏合宿以降、人と人とのネットワークは徐々に拡大している。

#### ◆苦勞した点

＜予算＞

- ・参加費が安価だったため、問い合わせが殺到した。
- ・参加費が安価だったため、こちらの意図とは異なる託児目的のような申し込みもいくつか見受けられた。

＜外部への PR＞

- ・先着順に受け付けたが、学校ごとにチラシ配布時期が異なり学校に偏りが出た。
- また、保護者から先着順の受け付けに苦情の問い合わせもあった。抽選にするべきだった。

＜参加者＞

- ・予想以上の反響があり、参加者の人数を倍にした。キャンセル待ちも続出し、対応に追われた。
- ・ホームシックになり、1 人リタイアの参加者が出た。保護者との連携によりしばらくは耐えたが、やむを得ずの帰宅となった。しかし、最終日には保護者とともに訪問してくれ、完成の喜びを他の参加者と同様に噛みしめていた。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

ツリーハウス作りだけでなく、食事の支度や薪風呂体験、まちあるきなどのプログラムを組み込んだため、時間的にも精神的にも余裕のない場面があった。そのため、メインであるツリーハウス作りのときに集中が途切れてしまう様子も見られ、メリハリのあるスケジュール作りの大切さを痛感した。また、スケジュールがおおしてしまい、ツリーハウスの完成がギリギリになってしまったので、今後の合宿では敢えて力を抜くような時間を組み込む必要があるとわかった。

今回のツリーハウスのように、集団で 1 つのものを作り上げる内容にも面白さはあるが、参加者の個性を活かして個々の表現ができるような企画も今後は実施していきたい。

過去の夏合宿で再生した 2 物件は今回の夏合宿の作業現場及び宿泊場所として利用した。今回作ったツリーハウスもこれから開催される夏合宿やイベント等で活用していく。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

真夏の屋外作業は虫も多く慣れない大作業も大変そうであったが、少人数のチーム体制をとり、小まめな休憩を挟むよう徹底したおかげで目立った怪我や体調不良といった大きなトラブルは特に発生しなかった。食事の準備や薪風呂の湯沸しといった場面では譲り合いや助け合いの姿勢も合宿が進むにつれて見え始め、最終日には初日にはまだ幼かった責任感が頼もしく成長していた。

参加者は自分たちの生活する町の知らなかった場所やおもしろい店を知り、町への興味が高まっているようだった。斜面地での生活が持つ苦勞や不便さ、様々な問題点を合宿で実際に体験することで、身をもって理解を深め、座学だと曖昧にしかわからなかったことが伝わったように感じた。

多様な内容を盛り込んだプログラムのおかげで参加者は合宿を大いに楽しんだ様子だった。参加者や保護者から次回開催を熱望され、手応えを感じた。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 よもぎのアトリエ |
| 中高校生を被災地の役に立てる人材に育てる事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 地 域   | 広島県広島市             |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 代 表 者 | 代表理事 室本 けい子        |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 支援金額  | 40 万円              |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |                    |
| <p>(1) 東北へのボランティア派遣(広島からの参加中高生等 8 名・引率大人 2 名)</p> <p>◆8 月 7 日: 仙台到着後「せんだい・みやぎ NPO センター」を訪問、伊藤事務局長を訪ねる。震災復興における NPO センターの役割の説明を受けた。(http://blog.canpan.info/minmin/archive/537) 参照。</p> <p>◆8 月 8 日: 名取市美田園第 2 仮設を訪ねる。仮設住宅団地の草むしりや窓ふきなどをお手伝いし、龍馬塾生得意のヨーヨーのショーを披露した。その後「津波にのまれた北釜地区(仙台空港のすぐそば)の現地を是非見て欲しい」という仮設団地の高橋会長夫人のお誘いを受け、海岸沿いの松林まで出かけた。</p> <p>※協力団体: 友達 in 名取、名取交流センター協議会、美田園第 2 仮設団地、(特非)せんだい・みやぎ NPO センター</p> <p>◆8 月 9 日: 岩手県被災地に移動(大槌町)を訪ねた。1 年間に 150 回被災地に通うという NPO サンガ岩手の吉田律子氏や岩手食育ネットの中村信子氏に案内してもらい、吉田氏が指導する高齢者の作業所のお手伝いをさせてもらった。</p> <p>(サンガ岩手は <a href="http://www.youtube.com/watch?v=FdThe7SNWLM">http://www.youtube.com/watch?v=FdThe7SNWLM</a>) 参照。</p> <p>後に中村信子氏は基町まで訪ねてきてくれるところとなった(10 月 27 日)。</p> <p>◆8 月 10 日: 岩手県被災地の中でも被害の大きかった陸前高田市の市役所や、船が打ち上げられたままの宮城県気仙沼市などの様子を見学しながら仙台に戻る。</p> <p>◆8 月 11 日～12 日: 帰路途中で静岡県の発達障害児グループからの要請を受け、交流合宿及び富士山登山を行った。これは、発達障害児の親の会である『未来子育てネット静岡 中田てくてく(会員 52 名)』の親や子ども達から『龍馬塾』の子ども達が人気となり、東北の帰路を活用して一緒に合宿したいと要請を受けたものである。</p> <p>◆8 月下旬～3 月: 広島基町ショッピングセンターの店舗で写真展コーナーを設けて今回の事業の報告を行った。</p> <p>(2) 広島で報告会や交流会を兼ねたコミュニティ祭『基町吊り下げ雛祭』の開催を行った。(中高生 20 名、小学生 20 名、地元の大人達は多数名、被災地等からは広島県内に避難してきている被災地出身者家族(親子 8 家族 20 名)を招待した。</p> <p>◆ 3 月 24 日開催(午前 10 時～午後 4 時) ◆ 場所: 基町団地の中央広場と集会所や商店街各店舗</p> <p>◆ 吊り下げ雛展示(宮城県名取市美田園第二仮設住民製作) ◆ 中高生達による被災地ボランティア報告(写真展も含む)</p> <p>◆ 被災地福島からの短期避難してきた家族との交流、懇談 ◆ 地元基町の住民グループの表現発表会(民謡など)</p> <p>◆ 子ども達の手による歓迎料理屋台の運営</p> <p>◆実施時期</p> <p>8 月 7 日(仙台市: せんだいみやぎ NPO センター)、8 月 8 日(名取市: 美田園第二仮設団地及び北釜被災地区)、8 月 9 日(大槌町他)、8 月 10 日(陸前高田市他)、8 月 11 日～12 日(静岡県富士宮市)、3 月 24 日(基町団地)</p> <p>◆参加人数</p> <p>8 月 7 日～10 日: 13 名、8 月 11 日～13 日: 29 人、写真展: カウントできず、3 月 24 日: 100 名以上</p> <p style="text-align: right;">参加総人員: 150 名</p> |       |                    |



東北へのボランティア派遣



夏期ツアー先で発達障害児の親子達と交流事業



宮城県名取市美田園第二仮設住宅より吊り下げ雛飾りが届き「つりさげひなまつり」を行った



3 月の地域イベントで、地域みなさんに焼きそばを提供する屋台を子供達が運営

#### ◆実施に伴う効果

最も大きな効果は「子ども達に自信がついたこと」である。  
一週間の旅を完遂し、東北の地を一人で行動したり、富士登頂にも成功したりという体験は、大きな自信につながったようだ。  
この東北との交流事業に関してはみなさんが好意的・肯定的な眼差しを向けてくれるようである。

#### ◆苦勞した点

外部へのPR。以下のパンフレットを作製した。



#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・「作業所」の立ち上げ:子ども達の中には軽度な障害と想定される者が居る。こうした子ども達にとっては社会の受入口はまだまだ狭い。B型やA型の作業所設立を目指したい。
- ・『みんなが龍馬塾』では、子ども達の非行防止はもちろんであるが、その原因となる低学力や労働能力の低さが問題だと認識している。よって「学習支援」と「アルバイト体験支援」さらには「就労支援」を続けていきたい。
- ・広島市内からではなく県外から評判となっている。北は北海道から南は沖縄まで「しっかりとした認識を持つ福祉人やまちづくり人」から好評をいただいている。この方向は堅持して行きたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

確実に子ども達の「自信」が強くなったと感じます。  
東北の地で語り、活動し、“一人旅スタイル”の単独行動で行動できるようになった子どもも出現した。  
また富士登山にもチャレンジできたことは子ども達を逞しくした。  
登頂挑戦者7名のうち、登頂成功者3名はいずれもタバコを吸わない子か止めた子であったことは非常に示唆的であった。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |                      |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------|--|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 元気っ子プロジェクト |  |
| 内海クリーンキャンプ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 地 域   | 広島県福山市               |  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 代 表 者 | 理事長 村上 泰弘            |  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 支援金額  | 25 万円                |  |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |                      |  |
| <p>内海町の島で行う親子参加による海岸清掃に、親子で参加できる自然体験を取り入れた活動です。特に夏のシーズンは海を使ったシーカヤック、ダイビング体験、防災に備えての着衣泳の指導体験を計画しています。身近な地元の海岸を清掃することと、山と海の自然を持つ島の特徴を生かした体験してもらうことで、地元地域の魅力や環境保全の大切さを学び、参加する青少年を健全に育成することにつながる市民活動を育てて行きたいと考えています</p> <p>◆実施時期<br/>7 月～10 月下旬<br/>内海町周辺海岸・伯方島(ダイビング体験のみ)</p> <p>◆参加人数<br/>7 月 1 日 シーカヤック 15 名    7 月 27 日 着衣泳            13 名<br/>8 月 5 日 ダイビング    13 名    8 月 10 日 着衣泳            22 名<br/>10 月 28 日シーカヤック 10 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:73 名</p> |       |                      |  |



シーカヤック体験、パドルング講習



スノーケリング講習



海岸清掃中！



着衣泳実践編



#### ◆実施に伴う効果

清掃活動を行う海岸が、夏場に賑わう海水浴場の向かい側にあり、潮流の関係でそこにゴミが漂着して目立つ状況だった。  
地域の人や漁協の人たちも清掃活動を行っているが毎月とはできない状況の中で、今回の清掃活動は喜ばれ、感謝されることで、子供たちも清掃活動を通して成長できたと思えた。  
シーカヤックは、子供たちもすぐにコツを覚え、海に浮かぶゴミなどを身近に観察することができ、親子でゴミなどの問題を話すきっかけや、地元の海で気軽にできるマリンスポーツに触れることができた。  
着衣泳は、東日本大震災の教訓より防災の意識が高まる中で、プールではなく実際に海で行うことが参加者に実践的と喜ばれた。  
夏の賑わう海水浴場で行ったため、参加者以外の反応もよく、ビーチのアナウンスで紹介もされた。  
ダイビング体験は参加した親子の方が、この体験をきっかけで親子でダイビングライセンスの取得する計画を話してくれた。「親子で更なる成長する一つの体験でした」と喜ばれた。

#### ◆苦勞した点

予算面とPRに苦勞が多かった。  
ゴミを処分するのに、持ち込みの手間や予算が意外とかかり大変だったこと。  
屋外活動の為、雨などで当日のキャンセルなどの対応、調整が難しかった点

#### ◆今後の課題・発展の方向性

天候に左右される企画が多かったので、キャンセルなどが難しく調整に時間がかかった。  
定員割れで参加費が少なく、予算が厳しかった点  
ゴミ処理の予算と手間  
実際に海での着衣泳などは、子供たちの意識向上に役立ち、大人も含めて成長できる企画だった。  
海水浴場も防災や事故防止の観点からも、協力的な対応をしてくれたので継続、発展が見込まれる。  
シーカヤックやダイビングなどの体験実績により、協力していただいた団体との連携も図れ、独自のイベントにも発展できる見通しがついた。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

参加者がこの活動を通して、海のゴミなどの現状を知り、ボランティアや環境について関心を持ってもらえ、子供たちが進んでゴミを拾う姿や、体験を通して親子でライセンス取得などに向けての目標を目指し、成長していく様子を感じられたことが、スタッフ一同大変うれしかったです。  
小さな活動ですが、一人でも多くの青少年育成につながる活動になればと思いました。  
ご支援ありがとうございました。

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |              |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 活 動 名   | 団 体 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 社団法人 山口青年会議所 |
| スカイワークス | 地 域                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 山口県山口市       |
|         | 代 表 者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 理事長 吉村 貴三朗   |
|         | 支援金額                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 30 万円        |
| 活動概要    | <p>子ども達に様々な仕事にチャレンジしてもらい、その体験を通して未来を生きぬく力を育てると共に、大人になりきって仕事体験をする中で責任感と自立心を自然に高めることを目的とし、5月5日の子どもの日に山口県維新百年記念公園で39回続いている『青空天国いこいの広場』の一角で3歳から小学6年生までの子どもを対象に25種類の職業体験ブースの中から好きな仕事を体験してもらう『スカイワークス』を実施した。</p> <p>5月5日に向け、地域の11の協力団体、15の協力企業と連携しこの活動をより良い活動にする為の実行委員会、企画部会、リーダー会議を実施した。</p> <p>◆実施時期<br/>平成24年5月5日<br/>山口県維新百年記念公園</p> <p>◆参加人数<br/>15企業 11団体 208名<br/>参加児童 2,657名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:2,865名</p> |              |



企画部会や報告・反省会では多くの意見が飛び交いました。



故障車を積載車に積み込む作業



消防士になりきって消火活動をする子ども達



多くの子ども達でにぎわうスカイワークス会場

#### ◆実施に伴う効果

##### ※子ども達に与えた影響

- ① やってみたい仕事を実際に体験できたことは子ども達にとって、とても良い経験になりました。
- ② 仕事体験を終え、「大きくなったら、この仕事したい」という声を多く聞いたことから子ども達に将来の夢を具現化させることができたと感じます。
- ③ 仕事をやりきることで、責任感と自立心を高めることができたと思います。

##### ※協力企業・団体に与えた影響

- ① 地域社会に対して、青少年の健全育成に役立ち社会貢献できたことは大きな成果がありました。
- ② 社員に対して、自らの仕事内容を再確認させ、理解を深めることができました。
- ③ 今後とも協力して頂ける基礎ができたと思います。

##### ※その他

- ① テレビ・ラジオ・新聞・地域情報誌など多くのメディアで取り上げて頂いたことで、我々の活動を地域の方々にご理解いただくことができ、今後の基礎づくりもできました。

#### ◆苦勞した点

新規事業ということもあり、参加企業・団体の募集から企画・ルール作りなど、すべてが 0 からのスタートでした。

3 歳から小学 6 年生までの子どもを対象にした為、子ども達に能力の差が大きい事で各参加企業・団体に仕事の内容の工夫や安全対策など様々な配慮をして頂いた。

屋外での活動だった為、雨天時の対策・対応も必要でした。

パンフレットを山口市内全ての保育園・幼稚園・小学校の生徒数を調べて学年ごとに分けし、生徒児童、全員に配布しました。

5 月 5 日当日参加員計画の 1200 人を大幅に超える人数が朝から殺到した為、戸惑う場面がありました。急遽各ブースに受け入れ人数を増やして頂き 1 回の実施時間を短縮して頂くお願いに回りました。受付をする際に当初の計画では子ども達に実施時間までずっと待ってもらうというルールを作っていたが晴天で気温も上がったため、子どもの体力を配慮して午前と午後に分けて予約制という形をとった。参加者の人数が想定以上だった為、仕事体験を楽しみに来ていた子が 1 つも仕事体験でき不出ないという状況が起きた。

バル(スカイワークス内だけで使える疑似通貨)を使えるブースが限られていた為、そこに長蛇の列ができた。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ① 開催場所を広くし、アスファルトの上ではなく砂のグラウンドなどに変更することにより、より多くの団体・企業に参加して頂く可能性が増えるとともに、子ども達にも多くの経験をさせてあげられることができると思います。
- ② 参加団体・企業の中には、4 月で担当者が変わる業種がありますので、できる限り事前によく話し合い、スムーズな引き継ぎができるようにしておいたほうが良い。
- ③ 今までにない青少年の健全育成活動を進化させながら継続していきたいと思っています。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団様のご支援をはじめ、多くの参加団体・企業のご協力があったからこそ、事業を成功させることができたと思います。本当にありがとうございました。感謝しております。

スカイワークスを楽しみに来てくれる子ども達が多くてすごうれしかった半面、そういう子が多すぎて、何も体験できない子が多数出たという事態が起きたことなど改善すべき点は多数ありますが、この『スカイワークス』という青少年の健全育成活動を進化させながら継続していきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。



|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |             |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 活 動 名                  | 団 体 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | エジソンの卵を育てる会 |
| モノづくり教室(主催エジソンの卵を育てる会) | 地 域                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 山口県大島郡      |
|                        | 代 表 者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 会長 山本 豊     |
|                        | 支援金額                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 20 万円       |
| 活動概要                   | ◆実施時期・活動概要<br>7/2 地域の防災訓練に参加我々の活動を見学にこられた 石小田自治会 25 名<br>クラブで作った手作り防災グッズを見学され講義を聞いていただき防災意識の向上に寄与、<br>なお会では飲み水、懐中電灯、乾電池、保存食の備蓄を行っている<br>7/31 モノ作り教室夏休み自由研究のお手伝いにもなるこの時期を選び IC オルゴールの製作参<br>加小学生 40 名<br>10/28 モノ作り教室小学生参加 21 名凧作り学年別に難易度をわけて凧の形状や大きさを変えて<br>作らせた全員時間内に完成あいにく微風のため走らせて揚げる<br>11/18 来年度の計画にアマ無線の養成のため無線局の準備、廃局で不要になったタワーを撤去<br>移設。7 名<br>11/25 ケーキ作り教室 40 名明新小学校家庭科教室。菓名はブッシュドノエル<br>12/02 イルミネーション設置すべて LED でグランドのバックネット利用約 60 名<br>1/15 イルミネーション衣替え新春モードに 8 名<br>2/24 モノ作り教室最終回万華鏡作り参加者 20 名<br>テーマ『光と遊ぼう』光のアートと不思議を体験<br>その他<br>通年適宜スタッフで広場の除草、清掃、花壇整備、防災グッズの製作<br>大島商船学校イベント『島スクエア』に協賛 2 回、防災グッズの展示(来客数 600 人主催者調<br>べ)<br>◆参加人数<br>小学生 121 名<br>一般 75 名<br>自治会 25 名 |             |
| 延べ参加人員:221 名           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |             |



IC で作ろう 電子オルゴール



自分で作った凧を揚げました



「光と遊ぼう！」万華鏡を製作しました



料理もモノづくり。巨大ブッシュドノエルを作ったぞ



◆実施に伴う効果

小学生対象の教室は3年目でもあり定着してきた、特に学校や親の理解が進み催促を受けるようになった、また夏休みは親子教室の開催の希望が増えている、地域との繋がりも進み自治会ごとのリクエストも来始めている、手作りの防災グッズ今、一番の関心事であることからこれからも続けていきたいイルミネーションを始めてから我々の存在が急に知れ渡ってきた。  
これからは今まで遠慮がちであった活動のPRを前向きに検討したい、とくに財団のシールをたくさん作り外に向けてPRするつもりである

◆苦勞した点

一番の苦勞は予算である  
奉仕団体への町からの支援は2年間いただいていたがそれでも不足する部分は持ち出しでおぎなってきました、地域の方に知れ渡るほど出費が多くなるのはしかたないことです...

◆今後の課題・発展の方向性

金のかからないイベントの模索  
これからもご近所から不要品集め、ゴミ拾い古物商のまねごとでただの材料確保に努力します

◆活動を終えての感想・意見等

子供たちの笑顔がエネルギーの源です

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |      |              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------|
| 活動名<br><br>ものづくり科学教室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 団体名  | 日本宇宙少年団 周南分団 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 地域   | 山口県光市        |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 代表者  | 分団長 志水 慶一    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 支援金額 | 10 万円        |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      |              |
| <p>毎月一回の定例教室、地域イベントへの協賛(科学工作と展示)、日本ボーイスカウト活動協賛、美祢市の全校生 17 名の小学校への出前教室を行いました。定例教室は、毎回 3 時間、工作、実験、時には見学などが主体の“楽しく作って学ぶ”を基本方針とする体験学習です。小学生を主体とする子供たちと父兄・スタッフが一緒になっての活動です。毎回 40～60 名と一緒に活動しました。参加者は、自分の工具などを持参し、講師およびリーダーの指導に従い、工作、実験を行います。毎回、新しいテーマですので、約 10 名のスタッフも生き生き、子供たちも楽しい活動となりました。工作、実験に際しては、プリントの配布、安全に関する注意、工作、実験に関連した科学的な説明などを行います。創造力、向上心、協調性、思考力、自立心などを育成出来たものと考えております。</p> <p>◆実施時期<br/>毎月 1 回 原則第 3 日曜日 13 時～16 時<br/>定例会場:周南市久米公民館(左記以外:防府市マツダ工場、塩田公園、ソラル)</p> <p>◆参加人数<br/>総数 約 700 名(定例教室 550+その他 150 名)<br/>(子供 約 25 名 父兄 15 名 スタッフ 10 名 合計 50 名<br/>定例教室 50×11 回+出前・協賛 50×3 回)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:700 名</p> |      |              |



低温の不思議体験(液体窒素、ドライアイス)



水ロケットの製作



ヘロンの噴水の製作



マツダ防府工場見学後のお礼の挨拶

#### ◆実施に伴う効果

- ・活動内容が広く知られるようになり、思いがけないところからも声を掛けられるようになった。  
例：遠方の綾木小学校、地域コミュニティ、日本ボーイスカウト連盟、山口維新プロジェクト
- ・また、平成 25 年度においても、企業（イオンタウン）より地域貢献のため定期的に科学教室を開催してほしいとの要請があり検討中。

#### ◆苦勞した点

2012 年度は、活動を始めて 4 年目でした。地域の多くの方々にも知っていただき、協力が得られることも多く順調に活動することが出来ました。

ただ以下の 3 点に少しですが苦勞致しました。

- ①参加登録者は、年々着実に増加していますが、指導するスタッフの新規加入が殆どなく、毎年、平均年齢が増えるばかりです。色んなチャンネルを通して募集していますが集まりません。次年度は、大人の科学教室を開催し、スタッフ増員の機会に出来ればと考えております。
- ②参加登録者が多くなったため、定員オーバーのこともあります。どのように優先順位をつけて参加者を決めるか思案するところです。参加者は、低学年は 1 年生から参加していますが、6 年生、中学生も居る中で、説明の仕方に苦勞するところです。また、安全と交流のため名札着用を義務付けていますが、忘れる者も多く、名前を覚えるのに苦勞しています。
- ③毎回、新しいテーマで活動することを方針としています。計算上、過去 4 年間で 48 テーマとなります。新規テーマで実施するのは、スタッフのモチベーション維持、アップのためと考えておりますが、新規テーマの設定は苦勞するところです。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・周南地区には、私どもの“ものづくり科学教室”のような内容で、定期的、継続的な活動は見受けられません。当方の活動も、次年度は 5 年目となりますが、本活動を将来に亘り周南の地に根付いた活動にしたいと考えております。そのためには、産官学ならびに一般市民に協力者、賛同者を増やし、基盤作りを進めたいと考えております。
- ・まずは、スタッフの増員が課題であり、地域活動にも注力し活動の PR を行うとともに、企業、学校、行政などに働きかけたいと考えております。
- ・また、定例活動が魅力的であることが基本であり、新規な、新鮮なテーマの実施を目指したいと思います。
- ・継続のためには、予算の手当てが不可欠であり、毎年予算を心配することなく活動に取り組めることが一つの願いです。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

一番の気がかりは安全であり、事故なく一年を終えられてほっとしています。今後とも危険と感じた時は躊躇することなく注意・対応することを心掛けたいと思います。

口コミでの新規参加者も多かったこと、思いがけない所から出前教室の依頼があったことなどから、多くの方に知られ、活動が評価されるようになったと喜んでおります。

毎月、定例教室を実施することは特に準備が大変ですが、子供たちと父兄の目の輝きが活動のエネルギーになったと思います。

次年度も子供たちの目が輝く活動を実施したいと思います。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |       |                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 サポートクラブ翔 |
| 発達障害のある子どもや学校にいけない子ども<br>達への支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 地 域   | 山口県周南市             |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 代 表 者 | 理事長 岡崎 和子          |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 支援金額  | 20 万円              |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       |                    |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 語りあいま翔： 保護者が集い、子どもへの支援について話しあう</li> <li>2. 学びま翔： 専門家の指導のもと、子どもの支援について学びあう</li> <li>3. 放課後等デイサービス事業： 児童福祉法による子どもたちの社会参加に向けての生活支援及び療育</li> <li>4. 障がい者スポーツ： サッカー、フライングディスク、グラウンドゴルフ、風船バレー、ヨット教室、<br/>プール教室</li> <li>5. イベント： そうめん流し、とことこトレイン</li> </ol> <p>◆実施時期<br/>平成 24 年 4 月～平成 24 年 12 月</p> <p>◆参加人数<br/>①語りあいま翔 25 人<br/>②学びま翔 70 人<br/>③デイサービス 40 人<br/>④サッカー 100 人、グラウンドゴルフ 150 人、ヨット教室 40 人、プール 50 人<br/>⑤そうめん 15 人、トレイン 20 人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:510 名</p> |       |                    |



「学びま翔」 発達障害のある子どもの支援について、専門家から学んだ



「学びま翔」 広い体育館で自由に遊んだ



子どもたちが、個性、思いのまま自由に段ボールで「自分の家」を作るワークショップ



「学びま翔」 音楽が、リズムが、障害のある子どもたちの能力を育むことを学んだ



◆実施に伴う効果

①語りあいま翔

徳山大学 川島教授の、長い療育の経験から出されるアドバイスは、保護者にとってとても理解しやすく、和やかなムードでの会話ができた。

②学びま翔

各専門の先生の指導の中で、子どもの活動を見ることで保護者が子供の笑顔を見ることができ、新しい支援のきっかけになった。参加された方全員が笑顔で帰られたことが、とても嬉しかった。

◆苦勞した点

①②については、徳山大学 川島教授の経験豊かな現場で培われたアドバイスが、分かりやすく、とても意義深いことであった。

③発達障害のある子どもへの支援については、保護者、支援者も学ぶべきことはまだ多い。

過疎により休校となった、市外から離れた小学校での活動であったが、保護者からは「遠い」のお声が多かった。先住の地域の方々との交流の場にグラウンドゴルフを選択したのは、とても良かったと思っている。研修会を通じて知り合った一人の不登校の子供が、最後の時に保護者から「おかげで子どもが学校に行くようになった！」と聞いた。

◆今後の課題・発展の方向性

発達障害のある子どもへの支援について、他地域での支援や、障がい者の就労についても、検討を始めている。

◆活動を終えての感想・意見等

放課後等デイサービス事業以外の活動は、当初計画していた以上の成果を出すことができた信じている。それは、アンケート用紙の回答や帰られるときの安心感に満ちた笑顔からである。

感謝のハガキもその表れである。

子どもの支援に疲れた保護者が、一人減り、また一人と、少しずつ前に進んでいることは、実感できた。

前述のように、不登校の小学生を救えたことも、スタッフ全員で喜んだ。

このような団体が絶対に必要であると、私は思っている。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------|
| 活 動 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 団 体 名 | 国際交流ひらかわの風の会 |
| 地域でできる先駆的多文化共生事業「外国人留学生家族の子育て支援」等による親日留学生の育成                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 地 域   | 山口県山口市       |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 代 表 者 | 会長 中村 幸士郎    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 支援金額  | 30 万円        |
| 活動概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |              |
| <p>マツダ財団の活動支援により、平成 22 年度以降、留学生等と地域住民の交流活動が一層展開することができたことに、感謝いたします。</p> <p>平成 24 年度での主な活動として、新たに展開した子育て支援事業では、乳幼児をもつ留学生家族と地域住民の親子連れを対象にこども部会を立ち上げ、「KidsClubかぜ」教室事業を実施し、諸活動を展開しました。</p> <p>また、山口県の魅力を体験した山口ファンをつくる事業として、萩往還道を歩くツアーや秋吉台エコミュージアムや循環型エコトイレの現地視察など自然、歴史、文化を体験するバスツアーを開催した。継続として日本文化の原点「留学生のための農耕文化体験事業」を一年間を通じて実施するとともに、地域の恒例行事への留学生等の参加醸成を図った。</p> <p>◆実施時期<br/>平成 24 年 5 月から平成 25 年 3 月末まで<br/>山口市平川地域を中心に県内</p> <p>◆参加人数<br/>一行事当たり 50 人前後(内訳人数は、活動の具体的内容に記載)<br/>参加総人員延:1,150 名</p> |       |              |



乳幼児をもつ留学生家族と地域住民の親子連れ対象の「KidsClubかぜ」教室事業



「KidsClubかぜ」教室は、地域における多文化共生活動の重要な役割を担っている



山口県歴史文化自然環境体験ツアー



萩往還道を歩くツアー

#### ◆実施に伴う効果

- ・風の会の先駆的な活動が地域・社会に与える影響は大きく、地域住民の留学生に対する見方に変化が生じている。KidsClub かぜ教室、農耕文化交流、盆踊り、あゆつかみなど地域住民と一緒に活動を行う活動では、言葉の壁を越えて本音の交流が始まった。
- ・また、山口大学からも風の会に対して期待が大きく、活動に参加した留学生が、帰国してロコミで、都市部の大学より自然が豊かで土地の人たちとの交流ができる山口(大学)の魅力が広がっていることが、東アジアを中心に山口大学への留学希望が増加傾向にあることで判明している。
- ・留学生たちにとって忘れられない交流体験や日本文化の素晴らしさを満喫したようで、親日留学生が急増しています。
- ・地域においては、風の会の活動が刺激となって、地元平川小・平川中学校において、留学生交流授業などを積極的に取り組むようになりました。
- ・留学生家族から、平川地域が本当の意味で住みやすさを実感できるようになったとの声が多数あった。
- ・地域の人たちと留学生家族が、スーパーやコンビニなどで気軽に声掛けができる情景が、いつもの情景になりつつある。一方、留学生家族が見知らない地域の人たちにも話しかけるようになってきた。
- ・留学生の自転車等のマナーが段々よくなってきているように感じる。
- ・山口大学留学生支援室との連携により、新規留学生生活説明会のカリキュラムに、必ず風の会の年間活動資料を提供していただくなど、大学側の理解度が深まった。
- ・多文化共生地域として、モデル的な位置づけとなりつつある。
- ・地区の交流センター職員が、当会の活動等に理解されるようになり、当会の諸行事に参加されたり、積極的なお手伝いをいただいている。
- ・山口大学国際・地域連携課との意見交換会などで、発言力が高まってきた。
- ・イスラム系留学生家族から信頼され、4 回目の出産サポート(医師との医療通訳、妊婦の送迎等)を行った。

#### ◆苦勞した点

- ・モスLEM留学生家族とモスLEM以外の留学生の料理づくりにおいて、ハラール材料を別に仕入れるなど、特別に気をつけているが、これも多文化共生社会を理解するうえで重要なことと理解している。
- ・東アジア留学生たちは金銭面で苦しいため、行事参加の負担金を安価や無料にするなどしていることから、当会スタッフ(会費とは別)の負担も増大となってきているが、マツダ財団の支援により、多少なりとも助かっている。また、留学生たちの参加機運の醸成となっている。今後も引き続き、負担軽減を図りたい。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・外国人が 300 人以上居住している同地区において、多文化共生社会は避けて通れない中で、山口大学との連携が益々重要になってきている。留学生たちの居住環境においても、高額家賃で悩むことも多く、地区内のアパート経営者の中で、留学生への負担軽減を理解される経営者らとの交流会を設置し、短期(数か月程度)の居住が可能で、しかも安価(敷金、礼金無し、家賃 2 万円以下)で居住できるアパートを紹介できるシステムを大学側と確立していきたい。大学側からの要望でもある。
- ・地域でできる留学生家族の生活支援対策や育児支援対策等の重要性が理解できた。
- ・平成 24 年度事業から実施した留学生と地域の親と幼児を対象の子ども交流事業「KidsClub かぜ教室」を実施した成果は、留学生家族だけでなく地域にとっても大きな意味があった。
- ・留学生たちを交えて、課題を整理し、関係機関等へ提言していけるように取り組みたい。
- ・帰国留学生とのネットワークを構築し、グローバルに、末永く国際理解や国際交流が図れるようにしていくことが大事であり、本音の交流を本格実施したい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

- ・地域における青少年(大学生、地域住民)に、国際理解を一層推進し、留学生との交流の中心的な役割を担わせ、多文化共生のモデル的な地域を目指す。
- ・平成 23 年度からスタートした風の会学生会部会も定着し、大学生による企画運営による活動が定着してきた。
- ・子育て支援における KidsClub かぜ教室事業は、ブログなどの紹介から、反響が大きく、マスコミだけでなく視察も多く、地域における多文化共生活動の重要な役割を担う。
- ・山口市内の大学、留学生、地域住民、関係機関などから、風の会の活動が浸透したことで、活動に理解の輪が広がり知名度が高まった。そうしたことで、子育て交流関係では、他の子育て団体から、お手伝いしたいとの声もかかるなど、コラボレーション活動を平成 25 年度から実施する。
- ・これらの諸活動に参加した留学生たちから、帰国前に、多くの思い出と日本・日本人に対する意識の変化(好意的)があったことから、親日留学生を育成していくことを主眼に今後も活動していきたいし、地域における国際交流の重要性を再認識した。
- ・こうした活動をご理解いただいているマツダ財団には、この支援が大変価値のあるものと思っている。今後活動も飛躍的な展開ができたことに感謝申し上げます。  
なお、今回は申請していませんが、平成 26 年度事業分の申請に向けて、新たな事業展開を考えているところです。



|                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                     |         |       |      |      |      |      |          |       |     |         |       |      |          |      |      |         |       |      |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|---------|-------|------|------|------|------|----------|-------|-----|---------|-------|------|----------|------|------|---------|-------|------|
| 活 動 名                       | 団 体 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 特定非営利活動法人 コミュニティ友志会 |         |       |      |      |      |      |          |       |     |         |       |      |          |      |      |         |       |      |
| 小学生のキャリア教育「Kids Cafe」でカフェ運営 | 地 域                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 山口県防府市              |         |       |      |      |      |      |          |       |     |         |       |      |          |      |      |         |       |      |
|                             | 代 表 者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 代表理事 松永 朋子          |         |       |      |      |      |      |          |       |     |         |       |      |          |      |      |         |       |      |
|                             | 支援金額                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 25 万円               |         |       |      |      |      |      |          |       |     |         |       |      |          |      |      |         |       |      |
| 活動概要                        | <p>小学生のキャリア教育として、学校・地域行事などのイベント会場を借用し、事前に応募した小学生たちが Café スタッフとなったキッズカフェを、年 4 回開催しました。</p> <p>&lt;目的&gt;</p> <p>① 接客や販売などを体験しながら、「働く」ことを経験する。</p> <p>② 経験を通じて、「仕事って大変だけど、仕事って楽しい」という気持ちを育む。</p> <p>③ 接客時の挨拶やコーヒーの入れ方などを事前に家庭で練習することで、保護者や関係者など、周囲の大人たちに「キャリア教育」を身近に捉えられるきっかけとする。</p> <p>10 月 20 日 愛情防府フリーマーケット会場の一角で開催、 11 月 10 日 萩ふるさとまつり会場の一角で開催</p> <p>12 月 15 日 山口市市民活動支援センター(クリスマスイベントの一環で開催)、 3 月 3 日 防府市生涯学習フェスティバル会場の一角で開催</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>・開催する市の教育委員会に依頼し、小学校へ募集チラシの配布を行いました。</p> <p>・参加を希望する子ども達は、自筆で「Kids 専用の履歴書」に必要事項を記載し、郵送します。</p> <p>・書類選考後に採用を決定し、応募した子ども宛に採用通知を発送します。</p> <p>・開催 1 週間前に事前研修を開催します(保護者と共に参加)。研修では、業務説明・業務上の注意説明・シフト発表に加え、挨拶などの実践練習を行います。</p> <p>・当日は商品の注文や精算を行う「レジ・カウンター係」、注文の品を作る「キッチン係」、席への案内や給仕・後片付けを行う「フロア係」、手作りのチラシを配る「PR スタッフ」に分かれ、来店されたお客様をもてなします。また「お客様体験」も行い、他の Kids に接客を受ける体験も行います。</p> <p>・体験終了後は仕事を振り返る事後研修を実施し、今日の体験が今後役立つよう、感想などを記載し、記録を残します。</p> <p>◆実施時期</p> <p>10 月(防府)・11 月(萩)・12 月(山口)・3 月(防府)</p> <p>◆参加人数</p> <table><tr><td>実施時期</td><td>来場者数</td><td>参加人数</td><td>実施時期</td><td>来場者数</td><td>参加人数</td></tr><tr><td>10 月(防府)</td><td>150 名</td><td>8 名</td><td>11 月(萩)</td><td>120 名</td><td>12 名</td></tr><tr><td>12 月(山口)</td><td>95 名</td><td>12 名</td><td>3 月(防府)</td><td>300 名</td><td>27 名</td></tr></table> <p style="text-align: right;">参加総人員:59 名</p> |                     | 実施時期    | 来場者数  | 参加人数 | 実施時期 | 来場者数 | 参加人数 | 10 月(防府) | 150 名 | 8 名 | 11 月(萩) | 120 名 | 12 名 | 12 月(山口) | 95 名 | 12 名 | 3 月(防府) | 300 名 | 27 名 |
| 実施時期                        | 来場者数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 参加人数                | 実施時期    | 来場者数  | 参加人数 |      |      |      |          |       |     |         |       |      |          |      |      |         |       |      |
| 10 月(防府)                    | 150 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 8 名                 | 11 月(萩) | 120 名 | 12 名 |      |      |      |          |       |     |         |       |      |          |      |      |         |       |      |
| 12 月(山口)                    | 95 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 12 名                | 3 月(防府) | 300 名 | 27 名 |      |      |      |          |       |     |         |       |      |          |      |      |         |       |      |



キッチンスタッフの様子



受付・レジスタッフの様子



フロアスタッフの様子



PRスタッフの様子



◆実施に伴う効果

①カフェを通じて小学生の職業体験が提供できた。

②働く喜び、働く楽しさ、働く大変さ 等、仕事を通じた様々な経験を提供できた。

以上の 2 点から、今後のキャリアについて考えるきっかけや、職業選択のきっかけを提供することが出来た。

地域行事の一環でカフェを開催したことで、子どもが職業体験をする場を多くの大人が見ることで、地域で子どもを育てることの重要性についても、一石を投じることが出来たと、自負している。

◆苦勞した点

適切な人数の応募者を集めることに、苦勞しました。

地域行事の一環で開催したため、

①地域行事への参加を優先するため応募者が少なかった

②応募者が殺到し、募集期間途中で募集を中断せざるを得なかったということで、主催者の予測以上に、参加者の人数調整に苦勞しました。

◆今後の課題・発展の方向性

来年度も継続して開催する。参加者の中には、「キッズカフェに参加できる年齢になるまで、待っていた」というメッセージもあり、少しずつ地域に根付いた活動であることを実感しています。

◆活動を終えての感想・意見等

助成を頂きありがとうございました。助成を頂くことで、協力者の輪が広がったことが財産です。

## 第28回(2012年度) マツダ財団市民活動支援 贈呈式



《広島県》



《山口県》



《神楽ふれあい実行委員会ヒロシマ》



《広島県安芸高田市立小田東小学校》



《食べて語ろう会》



《みよし子育て学び支援あすなろ》



《青少年育成吉舎町民会議》



《夢の広場 ようこそ》





《府中町手をつなぐ親の会》



《永慶寺川の自然を守る会》



《メセナSUN-CLUB学びの森》



《学生ボランティア団体OPERATIONつながり》



《I PRAY》



《生物多様性研究所あーすわーむ》





《地域福祉活動支援協会人間大好き》



《ピピオ子どもセンター》



《府中町子ども応援隊》



《熱帯森林保護団体ひろしま》



《里山環境サポートセンター》



《自然体験活動推進センター》



《あいあいねっと》



《ひろせ冒険遊び場運営委員会》



《子供友好会》



《安地区まちづくりプランプロジェクト「おとなりさん」》



《かんきょう会議 浮城》



《尾道空き家再生プロジェクト》





《よもぎのアトリエ》



《元気っ子プロジェクト》



《山口青年会議所》



《エジソンの卵を育てる会》



《日本宇宙少年団 周南分団》



《サポートクラブ翔》



《国際交流ひらかわの風の会》



《特定非営利活動法人 コミュニティ友志会》



# マツダ財団青少年健全育成市民活動支援

## 第 27 回 (2011 年度)

| 活 動 名                            | 団 体 名                         | 地 域     |
|----------------------------------|-------------------------------|---------|
| 各種陸上競技大会の開催と青少年の健全育成             | 府中陸上競技協会                      | 広島県安芸郡  |
| こわれたおもちゃの修理をとおして青少年の健全育成と環境保全事業  | ひろしまおもちゃ病院                    | 広島県広島市  |
| 東区障害児のためのサマースクール                 | 東区障害児のためのサマースクール              | 広島県広島市  |
| 子供への居場所提供                        | 食べて語ろう会                       | 広島県広島市  |
| 親子で体験！五感で実感！大きな発見                | みやじま未来ミーティング                  | 広島県広島市  |
| カーブと市民の物語 紙芝居化プロジェクト             | プロジェクトC                       | 広島県広島市  |
| エコINNくろせ「わになれ黄金小麦」               | エコINNくろせ                      | 広島県東広島市 |
| 太田川アクティブアーチ ワークショップ体験            | 太田川アクティブアーチ実行委員会              | 広島県山県郡  |
| 手作りの紙人形劇(ペープサート)を通じて地域を元気にする     | 夢配達人プロジェクト 玖島実行委員会            | 広島県廿日市市 |
| 「みらい座」朗読劇『福山空襲』10 周年記念公演         | 特定非営利活動法人みらい福山                | 広島県福山市  |
| 2011 年度“直美の部屋”コンサート              | 直美の部屋                         | 広島県三原市  |
| 広島県内に於ける小中学生のロボット競技体験活動          | ロボカップジュニア広島ブロック保護者会           | 広島県広島市  |
| 永慶寺川の多様な自然を守り、育てる活動              | 永慶寺川の自然を守る会                   | 広島県廿日市市 |
| 子どもシェルターの開設・運営                   | ビビオ子どもセンター                    | 広島県広島市  |
| 第 4 回(財)日本ダウン症協会中国ブロック大会 in 広島   | (財)日本ダウン症協会広島支部 えんぜるふ         | 広島県広島市  |
| 高校生による「太田川学」研究                   | 高校生環境ネットワーク広島                 | 広島県山県郡  |
| 吉島地域の町職人と留学生が連携した「小学生のための物づくり体験」 | よじま職人工房                       | 広島県広島市  |
| NPO・NGO ユース・インターン・プログラム(YIP)     | ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART | 広島県広島市  |
| 世界の遊びを体験してみよう！                   | カモミール〜ラマンカ〜                   | 広島県東広島市 |
| 野生への挑戦 子どもキャンプ                   | まちづくりジュニアスタッフ“ACT”(アクト)       | 広島県大竹市  |
| 通学合宿                             | 通学合宿実行委員会                     | 広島県東広島市 |
| 人と自然とのふれあい                       | 大人のかくれ家倶楽部                    | 広島県広島市  |
| 府中町子ども応援隊                        | 府中町子ども応援隊                     | 広島県安芸郡  |
| ONE HOME PROJECT(ワン・ホーム・プロジェクト)  | Global Bridge                 | 広島県広島市  |
| 世界に届かないグローバルな子どもの健全育成支援活動        | ふれあいの森なんでも工房                  | 山口県周南市  |
| しゅうなん子どもドリームスクール                 | ドリームスクール実行委員会                 | 山口県周南市  |
| おごおりウィークエンドアドベンチャー               | おごおりウィークエンドアドベンチャー実行委員会       | 山口県山口市  |
| ものづくり科学教室                        | 日本宇宙少年団 周南分団                  | 山口県光市   |
| ホテル飼育施設の整備                       | 富海をホテルの里にする会                  | 山口県防府市  |
| 地域における青少年のための多文化共生事業             | 国際交流ひらかわの風の会                  | 山口県山口市  |
| 障がい者スポーツ教室                       | 障害児(者)サポートクラブ翔                | 山口県周南市  |
| 合 計                              | 31 件                          | 800 万円  |

## 第 26 回 (2010 年度)

| 活 動 名                                      | 団 体 名                       | 地 域       |
|--------------------------------------------|-----------------------------|-----------|
| 第 8 回おのみち 100km 徒歩の旅                       | 特定非営利活動法人おのみち寺子屋            | 広島県尾道市    |
| 「宮園小学校にビオトープを造ろう」                          | ふるさと宮園ビオトープの会               | 広島県廿日市市   |
| 第 2 回くれ絵本カーニバルの開催                          | くれ絵本カーニバル実行委員会              | 広島県呉市     |
| 市民協働による省エネ手作り玩具工作の普及と環境美化                  | 晴海町・青壮会                     | 広島県呉市     |
| 2010 呉子ども祭                                 | 呉子ども祭実行委員会                  | 広島県呉市     |
| B&C タッチステーションを各地に広げよう B&C タッチサポーター研修       | B&C タッチ・ステーションの会            | 広島県呉市     |
| 東広島おもちゃ図書館ビノキオ 10 周年記念行事                   | ひまわり                        | 広島県東広島市   |
| 高校生による環境教育・学習活動                            | 高校生環境ネットワーク広島               | 広島県広島市    |
| 伴南学区における地域安全対策活動                           | 伴南学区安全対策連絡協議会               | 広島県広島市    |
| 都市活性化事業「都市ギャラリープロジェクト」                     | 広島市立大学都市ギャラリープロジェクトチーム      | 広島県広島市    |
| 吉島地域の地元住民である町職人と小学生が連携した「小学生のための物づくり体験」    | よじま職人工房                     | 広島県広島市    |
| 世界の遊びを体験してみよう！                             | カモミール〜ラマンカ〜                 | 広島県東広島市   |
| 創作合唱オペラ「いのうものけ」公演(初演)                      | 創作合唱オペラ「いのうものけ」公演実行委員会      | 広島県三次市    |
| 若者と描く「多文化共生のまち廿日市」の夢                       | ええじゃん(Asian)                | 広島県廿日市市   |
| スイゲンゼニタナゴを知ろう！守ろう！～郷土の生きた宝ものを地域で守る～        | スイゲンゼニタナゴを守る市民の会            | 広島県福山市    |
| こどもの広場                                     | こどもの広場実行委員会                 | 広島県広島市    |
| 子ども森林ボランティア養成講座「もりメイトキッズ」                  | もりメイト倶楽部 Hiroshima          | 広島県広島市    |
| ONE HOME PROJECT(ワン・ホーム・プロジェクト)            | Grobal Bridge               | 広島県広島市    |
| 学生ボランティア「ほんわかプロジェクト」の定着と実践活動への支援           | ほんわかプロジェクト応援団               | 広島県広島市    |
| 中高生ボランティア育成                                | 特定非営利活動法人ワーカーズコープ広島支部       | 広島県安芸郡    |
| エコ学習の実践                                    | 大学環境ネットワーク協議会               | 広島県広島市    |
| 一般公募における、小グループ活動を中心とした青少年対象野外教育「クラブ事業」     | キララ・カウンセラーズ・クラブ             | 山口県山陽小野田市 |
| 山口ひびき少年塾－ぼくらの／ふるさと探検/タウンウォッチング－            | 山口ひびき少年塾                    | 山口県山口市    |
| 子どもたちと進める里山復活大作戦                           | Seeds(シーズ)                  | 山口県柳井市    |
| 子どもドリームスクール 2010                           | ドリームスクール実行委員会               | 山口県周南市    |
| ものづくり科学教室                                  | 日本宇宙少年団 周南分団                | 山口県光市     |
| 外国人留学生と平川地域における青少年健全国際交流活動                 | 国際交流ひらかわの風の会                | 山口県山口市    |
| 幼児、小学生読み聞かせ活動推進支援事業                        | 防府市読書グループ連絡協議会              | 山口県防府市    |
| 香月泰男生誕 100 年記念 小・中・高校生のための教材制作～わたしのシベリア～   | 特定非営利活動法人子どもとともに山口県の文化を育てる会 | 山口県山口市    |
| 「古泉城彦六(こせんじょうひろく)物語」紙芝居プロジェクト              | 古泉城ニコマル文庫                   | 山口県萩市     |
| 自閉症・発達障害の子どもをサポートするボランティアのためのハンドブック及びDVD作成 | 自閉症児を育てるママたちの会 ママかん         | 山口県山口市    |
| 合 計                                        | 31 件                        | 800 万円    |

## 市民活動支援

### 1. 募集・応募・選出状況

第28回(2012年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

#### (1) 募 集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

- |              |                                                                                  |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| (a) 対象活動     | 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動<br>①自然とのふれあい ②ボランティア育成 ③地域連帯<br>④エコ ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり |
| (b) 募集地域     | 広島県、山口県                                                                          |
| (c) 支援期間     | 単年度支援 2012年4月1日～2013年3月31日の1年間                                                   |
| (d) 支援金総額    | 800万円                                                                            |
| (e) 1件当り支援金額 | 10万円～50万円                                                                        |
| (f) 募集期間     | 2011年10月13日～2012年1月13日                                                           |

#### (2) 応募状況

締切日までに108件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- |         |              |          |
|---------|--------------|----------|
| (a) 地域別 | ・ 広島県        | 40件(37%) |
|         | ・ 広島市        | 38件(35%) |
|         | ・ 山口県        | 30件(28%) |
| (b) 分野別 | ・ 自然とのふれあい   | 15件(14%) |
|         | ・ ボランティア育成   | 19件(17%) |
|         | ・ 地域連帯       | 54件(50%) |
|         | ・ エコ         | 5件(5%)   |
|         | ・ 国際交流・協力    | 5件(5%)   |
|         | ・ 科学体験・ものづくり | 10件(9%)  |

#### (3) 支援対象の選出

選考委員会(2012年2月21日、22日開催)での審議の結果、支援候補として、総計32件800万円が選出され、2012年3月26日開催の第7回理事会において正式に承認決定されました。

#### (4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・ 広島県 2012年4月23日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の26団体に  
対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・ 山口県 2012年4月25日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の6団  
体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

## 2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

### (応募件数および支援件数)

|            | 本年度(第28回)<br>2012年度 | 第27回<br>2011年度 | 第26回<br>2010年度 |
|------------|---------------------|----------------|----------------|
| 応募件数 (件)   | 108                 | 97             | 92             |
| 支援件数 (件)   | 32                  | 31             | 31             |
| 支援比率 (%)   | 30                  | 32             | 34             |
| 支援金総額 (万円) | 800                 | 800            | 800            |

### (地域別状況)

| 地 域     | 2012年度 |      | 2011年度 |      | 2010年度 |      |
|---------|--------|------|--------|------|--------|------|
|         | 応募件数   | 支援件数 | 応募件数   | 支援件数 | 応募件数   | 支援件数 |
| 広島県 (件) | 40     | 14   | 36     | 12   | 31     | 12   |
| 広島市 (件) | 38     | 12   | 32     | 12   | 33     | 9    |
| 山口県 (件) | 30     | 6    | 29     | 7    | 28     | 10   |
| 合 計 (件) | 108    | 32   | 97     | 31   | 92     | 31   |

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

### (分野別状況)

| 分 野            | 2012年度 |      | 2011年度 |      | 2010年度 |      |
|----------------|--------|------|--------|------|--------|------|
|                | 応募件数   | 支援件数 | 応募件数   | 支援件数 | 応募件数   | 支援件数 |
| 自然とのふれあい (件)   | 15     | 3    | 19     | 6    | 12     | 4    |
| ボランティア育成 (件)   | 19     | 5    | 10     | 3    | 13     | 6    |
| 地域連帯 (件)       | 54     | 13   | 45     | 13   | 41     | 12   |
| エコ (件)         | 5      | 3    | 3      | 2    | 7      | 2    |
| 国際交流・協力 (件)    | 5      | 3    | 13     | 4    | 14     | 5    |
| 科学体験・ものづくり (件) | 10     | 5    | 7      | 3    | 5      | 2    |
| 合 計 (件)        | 108    | 32   | 97     | 31   | 92     | 31   |

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)



# 役員・評議員名簿

平成 25 年(2013 年)7 月 1 日現在

| 財団役職             | 常・<br>非常勤 | 名 前     | 役 職                        |
|------------------|-----------|---------|----------------------------|
| 理 事 長<br>(代表理事)  | 非         | 金 井 誠 太 | マツダ株式会社代表取締役副会長            |
| 専務理事<br>(代表理事)   | 非         | 吉 原 誠   | マツダ株式会社執行役員 総務・法務室長        |
| 常務理事<br>(業務執行理事) | 常         | 魚 谷 滋 己 | 公益財団法人マツダ財団事務局長            |
| 理 事              | 非         | 上 田 宗 岡 | 上田宗箇流家元                    |
| 理 事              | 非         | 岡 谷 義 則 | 株式会社中国新聞社代表取締役社長           |
| 理 事              | 非         | 高 橋 超   | 広島大学名誉教授                   |
| 理 事              | 非         | 浜 中 典 明 | 財団法人広島市未来都市創造財団常務理事        |
| 理 事              | 非         | 平 谷 優 子 | 弁護士                        |
| 理 事              | 非         | 山根 八洲男  | 広島大学大学院工学研究院特任教授           |
| 監 事              | 非         | 友 田 民 義 | 公認会計士                      |
| 監 事              | 非         | 藤 本 哲 也 | マツダ株式会社執行役員 財務本部長          |
| 評 議 員            | 非         | 浅 原 利 正 | 広島大学長                      |
| 評 議 員            | 非         | 安 藤 周 治 | 特定非営利活動法人ひろしま NPO センター代表理事 |
| 評 議 員            | 非         | 大 杉 節   | 広島大学宇宙科学センター特任教授           |
| 評 議 員            | 非         | 小 柴 是 睦 | 公益財団法人中国電力技術研究財団専務理事       |
| 評 議 員            | 非         | 佐 藤 次 郎 | 財団法人日本語教育振興協会理事長           |
| 評 議 員            | 非         | 杉 本 俊 多 | 広島大学大学院工学研究院長              |
| 評 議 員            | 非         | 竹 林 守   | マツダ株式会社相談役                 |
| 評 議 員            | 非         | 中 村 健 一 | 県立広島大学長                    |
| 評 議 員            | 非         | 堀 憲 次   | 山口大学大学院理工学研究科長・工学部長        |
| 評 議 員            | 非         | 山 木 勝 治 | マツダ株式会社特別顧問                |
| 評 議 員            | 非         | 山 西 正 道 | 広島大学名誉教授                   |
| 評 議 員            | 非         | 吉 田 総 仁 | 広島大学副学長                    |
| 評 議 員            | 非         | 渡 辺 一 秀 | マツダ株式会社相談役                 |

(五十音順・敬称略)

**NOTE:**

この概要はマツダ財団が 2012 年度に支援を行った  
「青少年を育むための市民活動」32 件の活動のひとつです。

お問い合わせは、マツダ財団事務局へ

住所: 〒730-8670 広島県安芸都府中町新地 3-1 マツダ(株)内

TEL: (082) 285-4611

FAX: (082) 285-4612

E-mail: mzaidan@mazda.co.jp

ホームページ: <http://mzaidan@mazda.co.jp>

**マツダ財団市民活動支援とは**

次代を担う子どもたちが、いろいろなことに興味を持ち、多くの感動を得ることのできる生活体験の機会の提供や地域社会づくりのための諸活動を支援。

**対 象** 青少年の健全育成を目的とした、主に民間の非営利活動。  
自然とのふれあい、ボランティア育成、地域連帯、エコ、国際交流・協力、科学体験・ものづくりの各場面で、特に、子どもたちの参画度の高い活動、創意工夫を育てる活動や、地域での様々なささえあい活動、学校と地域が連携する活動、外国人留学生との交流事業、東日本大震災復興支援活動等を支援。  
青少年の範囲は概ね 6 歳～24 歳。

**募集期間** 毎年 10 月中旬～翌年 1 月中旬 活動は翌年 4 月以降に実施されるもの  
(4 月 1 日より即実行できるよう、年度開始前に募集し、支援を決定します。)

**募集地域** 広島県、山口県

**支援金額** 1 件当たり 10 万円～50 万円